

鯉江康正ゼミナール 活動報告書

令和元年度 学生による地域活性化プログラム

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、 地域を盛り上げたい!



02

令和元年度

ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成 19 (2007) 年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP) に選定された「学生による地域活性化提案プログラム—政策対応型専門人材の育成—」の始まりから、これまで十数年に渡り継続・発展して参りました。現在では、本学の特徴的な教育プログラムの一つであると言えます。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。この取り組みが地域の活性化に十分に貢献しているとは言えませんが、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいていた地域連携アドバイザーをはじめ地域のたくさんの皆様から各取り組みテーマへのお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。最近では、取り組みの中心である学生の活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も多くなりました。地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご協力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えを述べることは難しいと思いますが、本プログラムでは、答えの無い様々な地域課題に対して、それらの課題をどのように考え、どのように行動を起こして対応して行くのかを学生が自ら体得していくことができます。本学を卒業後に地域社会の一員となる学生が、将来このような地域課題に対して日々取り組むことになることを考えると、彼らにとってこれらの体験は大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めて行くこととなりますが、時には学生同士のちょっとしたすれ違いや一緒に活動する地域の大人たちとの意見の食い違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一歩、人として成長するためのきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむ中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

なお、本プログラムは「令和元年度 新潟県大学魅力向上支援事業」の採択事業として行われましたことを申し添えます。

令和2年2月



長岡大学は、文部科学大臣の認証を受けた『公益財団法人日本高等教育評価機構』により、平成28年度大学機関別認証評価を受審し、平成29年3月7日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると「認定」されました。

はじめに

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、 地域を盛り上げたい！



長岡大学教授／ゼミ担当教員 鯉江 康正

人口減少が進む新潟県内において、各自治体は地域社会を維持・継続させるために、防災対策、少子高齢化対策、産業振興策、教育・文化に関する政策、地域振興・まちづくり政策など様々な施策を実施しているが、その効果は限定的と言わざるを得ないのが実状である。そのような状況下において、外的な力で活性化を図ることは、一時的には効果が期待できるが、長期的な観点からは地域内部での自発的な協調・協力がそが地域を支える力となるものと思われる。

以上のような考えのもと、鯉江ゼミでは平成 19 年度から「まちの駅」の紹介、まちの駅が関係するイベントに参加してきた。平成 19 年当初は、長岡大学が「まちの駅 長岡大学」であるにもかかわらず、それを知る学生はほとんど皆無であったが、現在はほとんどすべての学生が「まちの駅」の存在を知っている。学生が提案した「まちの駅 長岡大学」としての社会への貢献として、トイレを貸すことはもちろん、図書館や学食の市民利用も可能となっている。高齢化が進み、商店街が疲弊していくなかで、学生が地域イベントには欠かせない存在となりつつあると自負している。

今年度も、新たに開設された県内の「まちの駅」を紹介するパネルの新規作成および更新をおこなった。この作業は、ルーティンワークであるが、一度とぎれさせてしまうと復活が難しいものであり、毎年必ず実施しているものである。また、新規・継続を含めて、まちの駅関連イベントとして、①新潟県内まちの駅交流会、②FMながおかでの長岡市内のまちの駅 10 駅のCM作成『長大生プレゼンツ！「まちの駅 60 秒 CM」』、③長岡大学学園祭「悠久祭」での模擬店「国際交流ツイワンの駅」、④「県内まちの駅のパネル展」、⑤「まちの駅&どまいち 春の物産フェア（見附市）」、⑥上通小学校の児童との協働事業「花はすボランティア」、⑦「長岡市民活動フェスタ'19」、⑧「とうきび観音祭り（長岡市栃尾地域）」、⑨「今町まちなかマルシェ 2019（見附市）」など、様々なイベントに参加してきた。また、今年度の成果としては、「越路マップ」の改訂も挙げられる。マップ作製はこれまでも多くのゼミで行われてきたが、単発的で改訂作業が行われない場合が多い。その理由は、そのようなスキルを持った学生が継続しないことによるものと思われる。この問題を克服するために、学生自らが考え、継続的な改訂が可能となるような方法を工夫した点は評価できるものと思う。

10 年を超す長い活動を通して、学生が得てきたものは、「自分たちがこれまでやってきた活動に自信を持ち、それを伝える」ことが大切で、「地域活性化活動はやらされているのではなく自分たちから楽しんでやる」ことであるということであった。繰り返しになるが、少子高齢化が進み人口減少が避けられない地域において、地道な活動こそが地域を支え、真に豊かな「まち」を形成できる第一歩であると私は考えている。本取組はそれをまさに実践した活動報告である。

令和 2 年 2 月

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、 地域を盛り上げたい！



【参加学生】 14名 (3年生9名,4年生5名)

4年生 岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生、Tamir Ariunaa

3年生 Enkhbat Solongo、大竹一輝、小林萌香、小山陸、

智野虎太郎、沼沢純子、阳凯枫、

Bayarkhuu Tugsbold、Altanchimeg Delgermaa

【アドバイザー】

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事 中川一男 氏

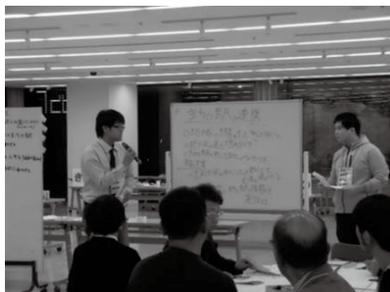
NPO法人市民協働ネットワーク長岡コーディネーター 太田道子 氏

今年も合い言葉は『GO!』 活動は楽しく。やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

①新潟県内まちの駅交流会



②FMながおか「1分CMの作成」



③長岡大学学園祭



④「まちの駅&どまいち
春の物産フェア (見附市)」



⑤花はすボランティア



⑥「長岡市民活動フェスタ'19」



⑦「とうきび観音祭り (長岡市栃尾地域)」



⑧「今町まちなかマルシェ 2019 (見附市)」



【越路マップの改訂】



「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい！

鯉江康正ゼミナール

- 16K017 岡部真也
- 16K028 小出優花
- 16K033 近藤孝洋
- 16K071 山城時生
- 16K305 タミル・アリョーナ
- 17K022 エンハバト・ソロンゴ
- 17K026 大竹一輝
- 17K050 小林萌香
- 17K055 小山 陸
- 17K080 智野虎太郎
- 17K090 沼沢純子
- 17K116 陽 凱楓
- 17K310 バヤルフ・ツウゴスボルド
- 17K401 アルタンチメグ・デルゲルマー

目 次

1. 調査・研究の目的 1	1
2. 「まちの駅」の概要と過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要	2
2.1 「まちの駅」の歴史と概要	2
2.2 過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要	5
3. 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネル作成	8
3.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順	8
3.2 パネル作成から完成までの手順	8
3.3 パネルの紹介	9
4. 悠久祭	19
4.1 模擬店「国際交流ツイワンの駅」	19
4.2 パネル展	20
5. ボランティア活動	22
5.1 まちの駅&どまいち 春の物産フェア	22
5.2 花はすボランティア	23
5.3 とうきび観音まつり	24
5.4 ながおか市民活動フェスタ' 19	26
5.5 今町まちなかマルシェ 2019	27
6. まちの駅1分間CM	29
6.1 概要	29
6.2 まとめ	31
6.3 CMを作成した駅のパネル紹介	32
7. 越路マップの改訂	52
7.1 越路マップの改訂の経緯	52
7.2 活動スケジュール	52
7.3 改訂作業の工程	53
7.4 変更点	53
7.5 もみじ園での配布	56
7.6 越路マップの改訂を終えて	57
7.7 まとめ	57
8. 新潟県内まちの駅交流会	58
8.1 概要	58
8.2 中間発表会	59
8.3 学生によるまちの駅インタビュー	60
8.4 19:30 までまちの駅討論会	60
8.5 まとめ	60

9. 成果発表会	61
9.1 概要	61
9.2 開催目的	62
9.3 留学生からの感想	62
9.4 まとめ	62
10. ウェブページの更新	63
11. とりまとめ	64
謝 辞	66
参考文献	66

1. 調査・研究の目的

令和元年12月19日現在の時点で新潟県内の「まちの駅」の開設数は、131駅であり昨年度より2駅増えた。県内の主要なネットワークは、越後長岡まちの駅ネットワーク(54駅)、まちの駅ネットワークみつけ(44駅)、まちの駅ネットワーク糸魚川(10駅)、まちの駅ネットワークごせん(5駅)であり、それ以外にも個人・法人が独自に開設しているまちの駅がある。

昨年度の鯉江ゼミナールでは、『「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい!』をテーマとして、新潟県のまちの駅の調査・研究と地域活性化活動を行った。今年度は、『「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい!』をテーマとして活動を行った。その目的はまちの駅を中心に、その地域の情報を発信すると同時に、地域活性化活動に参加することで地域を盛り上げることである。

まちの駅の調査研究では、各まちの駅へのヒアリング活動を行い、その調査内容をパネルとしてまとめる。そしてパネルは、学園祭(悠久祭)や地域活性化活動での展示や、長岡大学のホームページに掲載していくことで、多くの方にまちの駅を知って頂くことを試みている。そして、まちの駅を知った方が、まちの駅とその地域に足を運んでくださることを期待し、地域を盛り上げていくことを目的とする。

地域活性化活動への協力では、まちの駅を通じて様々な地域イベントへの参加、まちの駅1分間CMの作成、越路マップの改訂、新潟県内まちの駅交流会の企画・運営を行った。それらを通じて、地域を盛り上げることと地域の方々との交流を深めることを目的とする。加えて、上記の活動を通じて「まち」への理解を深め、新たな地域活性化活動の方法を模索する。そこから更なる地域活性化へ繋げていくことも目的とする。

今年度は、長岡市12駅、見附市1駅、三条市1駅、弥彦村1駅の合計15駅のパネルを作成・更新をした。パネルは、学園祭(悠久祭)のパネル展での展示と長岡大学のホームページに掲載することで情報発信をしている。

また上記に記載した地域活性化活動以外にも5つのボランティアを行った。例年参加している「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」「とうきび観音まつり」「今町まちなかマルシェ」を始め、昨年に引き続き、花はすの水やりも行った。そして日頃お世話になっているNPO法人 市民協働ネットワーク長岡の方のご依頼で「ながおか市民活動フェスタ」にも参加した。

本報告書の構成は以下の通りである。

第2章では、まちの駅の歴史と概要、鯉江ゼミナールが過去に行ってきた、まちの駅の調査・研究活動について紹介する。

第3章では、まちの駅におけるヒアリング調査とパネル作成・更新について紹介する。

第4章では、学園祭(悠久祭)でのパネル展・模擬店について紹介する。

第5章では、まちの駅を通じたボランティア活動について紹介する。

第6章では、まちの駅の情報発信活動として行った、1分間CMについて紹介する。

第7章では、平成29年度に作成した越路マップの改訂について紹介する。

第8章では、学生が企画・運営を行った新潟県内まちの駅交流会について紹介する。

第9章では、ゼミ活動の成果を紹介する成果発表会について紹介する。

第10章では、鯉江ゼミナールのウェブページの更新について紹介する。

第 11 章では、活動の振り返りと来年度の展望を述べ、とりまとめとする。

2. 「まちの駅」の概要と過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要

2.1 「まちの駅」の歴史と概要

2.1.1 「まちの駅」の歴史

本節は、長岡大学『平成 30 年度 学生による地域活性化プログラム活動報告書 「まちの駅」から地域の魅力を発信し交流人口の増加に寄与したい！』（文献 1）を参考にまとめたものである。

「まちの駅」は、平成 10 年にスタートした、既存の施設や空間（公共施設・民間施設）を「まちの案内所」「地域の茶の間」として自発的に開放する活動である。各地の「まちの駅」では「郷土愛」や「人間愛」をもった駅長・駅員（まちの案内人）が、地域の人や来訪者を「もてなしの心」で迎えるとともに、地域のちょっとした魅力を発信している。駅のネットワークにより地域全体の魅力を高めていこうという動きとともに、全国各地でまちの駅の交流・連携が進められている。

「まちの駅」は、「道の駅」の発想から変化していったものである。「道の駅」は道路空間の一部と位置づけられ、国道・新幹線沿いに設置される公共インフラとしてスタートしたので、国道沿いに使える土地がない場合や、国道沿いではない場所に作りたいと考えても、「道の駅」は作れない。また、地域連携軸の構築という考え方の中で、「道の駅」が地域間連携の拠点となる機能を果たすと考えられていたから、「道の駅」を設置できない市町村では、同じ機能を果たす「連携センター」を作る必要があると考えた。そこで、一市町村一箇所の設置を想定して、平成 10 年に「連携センター」の仮説実験を行った。新たに整備するための助成制度もなかったため、既存の公共施設を活用・開放して、その中に「地域連携機能」を置くという考え方であった。中部横断自動車道の早期完成を求める静岡・山梨・長野の 33 の市町村で形成する「中部西関東地域連携軸協議会」では、市役所や公民館、ホールなどを活用して、「連携センター」の正式名称を公募ガイドで募集したところ、2,700 もの応募があった。その中で、シンポジウムの中でも議論された結果「まちの駅」の名称を使うことに決定された。

その後、富山県高岡市の伏江努氏から株式会社として「まちの駅」に参画したいという要請があり、民間経営第 1 号の「まちの駅たかおか」が生まれた。

官の中に民間の発想や運営原理が入ると、議論のあり方が変わっていく。さらに、福岡県甘木・朝倉地域の上野春樹氏、手嶋隆行氏からは、「まちの駅」を街中に多数作って日常的に人が交流できる語らいの場にしたいという提案が出された。新しい発想を得て、「この指とまれ方式」で、商店や民間施設も含めた公募による「まちの駅」の実験事業が、21 施設の参加を得て行われた。その結果、多くの賛同を得て、民間施設の活用（開放）を中心に設置するネットワーク型まちの駅が、静岡から始まった。

設置賛同者が増えたところで、平成 12 年に「まちの駅連絡協議会」を立ち上げ、認証・登録を始めた。現在、全国に約 1,550 の「まちの駅」が設置されている。

2.1.2 「まちの駅」の概要

本節は、全国まちの駅評議会 まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>) (文献2) を参考に「まちの駅」が備えるべき機能、施設等の要件を整理しておく。

(1) まちの駅の定義と機能

まちの駅は必ずしも新設のものである必要は無く、既存施設の活用により、市町村、NPO、団体等が地域連携を目指しネットワークを図ることを原則とし、様々な運営主体、施設内容、規模、運営形態を持ったまちの駅が、共存することを想定している。したがって、市町村という行政域を超えた連携を目指して、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いを促進する施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を有するものであり、以下の機能を備えるものである。

- ☆ 誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能（休憩機能）
- ☆ まちの駅案内人が、地域情報について丁寧に教える機能（案内機能）
- ☆ 地域の人と来訪者との、出会いと交流のサポートをする機能（交流機能）
- ☆ まちの駅間でネットワーク化し、もてなしの地域作りを目指す機能（連携機能）

(2) 名称およびシンボルマーク

3つの山のようなマークは「人」を表す。一つ目の山は「よそ者」、二つ目は「ばか者」、三つ目は「わか者」を表している。真ん中の「i (アイ)」はインフォメーションを表している。

つまり、このマークは「いろいろな人が集まり、出会いが生まれ、まちや地域のことを教えてくれる人がいる場所」を意味している。まちの駅は、このマークの本来の意味を保つためにも、人同士・駅同士の「交流」が何よりも大切である。

各まちの駅は、その理念を共有した上で、地理的条件、運営主体、運営目的などに応じて、個性ある名称をつけるようにしている。ただし、全国共通のシンボルマークを併記することが必要である。全国共通のシンボルマークは「まちの駅連絡協議会」に入会した者で、かつ一定以上の条件を具備した施設に使用が認められている。



まちの駅のマーク

(3) 看板の設置

各まちの駅は、全国のまちの駅相互の連携を保ち、利用者の信用を確保するために、一定の規格に沿った共通シンボルマークを表示した看板を設置することが義務づけられている。その規格等は別に定めた「シンボルマーク使用・看板設置マニュアル」に従うこととなっている。

(4) 連携・支援

まちの駅は、相互で連携・支援し合うことを基本として、これらを促進するために、

各地の状況に応じて連携支援事項を申し合わせることになっている。「道の駅」などとの関係においては、特に形式的に区別せず、相手との協議に応じて、共存、連携していくことが勧められている。

(5) 人の配置

まちの駅には、「もてなしの心」を持った人を常駐させることが必要であるが、他の職務との併任でも構わない。案内人は、まちや隣接市町村などに関わる知識を習得するように努めることとされている。まちの駅運営者は、案内人が積極的に研修を受けられるように配慮するとともに、他の地域を含む案内人同士の交流の機会を作ることに努めることとされている。まちの駅連絡協議会主催の全国大会や研修会、その他地域大会などが開催される場合は、可能な限り派遣に努めることも必要である。

(6) 設備・備品・サービス

まちの駅に必要な最小限レベルの設備・備品・サービスは以下の通りである。

- ☆ まちの駅の看板（のぼり、シール等でもよい）
- ☆ 利用者が休憩できるスペース、椅子など
- ☆ トイレ（障害者も利用可能なものが望ましい）
- ☆ まちおよび周辺の情報

(7) 共通情報の整理、提供

まちの駅は、道路交通、地図情報、地元情報（観光、イベント、文化、歴史、住民活動等）、緊急時の対応などに関わる情報を常備することが必要とされている。

(8) 登録

まちの駅として登録を受けるためには、別に定める認定申請書に必要事項を記入の上「まちの駅連絡協議会事務局」に提出しなければならない。「まちの駅連絡協議会」役員会で、まちの駅の要件を欠くと判断した場合には、具体的な問題点を当該まちの駅に文書で通知することとなっている。通知を受けたまちの駅は早急に改善しなければならない。改善が図られない場合には、速やかに退会届を提出することとなっている。

(9) 報告

まちの駅に携わる者は、相互の運営およびまちの駅の全国レベルでの運営戦略展開に資するために、所定の項目について、電子メール等を活用し、定期的に情報交換を行うこととなっている。報告項目については、まちの駅のホームページで紹介される。

(10) 全国組織

全国共通に実施することについては、「まちの駅連絡協議会」において定めることとし、その規定に従うこととなっている。

2.1.3 道の駅とまちの駅の違い

「まちの駅」と「道の駅」を混同している方が多いというのは、各地からよく聞かれる声である。文字と違って、発音が似ているので聞き間違いやすいことも一因と考えられる。

「道の駅」は、①休憩機能②情報発信機能③地域連携機能の3つを併せ持った公共施設である。利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場や清潔なトイレがあることなどの登録要件とともに、設置者が「市町村または市町村に代わり得る公共的な団体」と定められている。

国土交通省のホームページ（文献3）では、「道の駅」の沿革として「平成3年10月～4年4月「道の駅」を実験（山口県、岐阜県、栃木県）」としか記載されていない。それは、「道の駅」の社会実験は国が行ったのではなく、地域交流センターが事務局となって、地元自治体や各種団体メンバーで協議会を組織して実施したものである。仮設の「道の駅」を設置して約1ヶ月の利用状況を検証した。その実験結果を受けて、建設省道路局により「道の駅」の共通コンセプトが整理され、平成5年に「道の駅」は制度化された。それから26年が経ち、全国各地に「道の駅」の設置が進められ、令和元年6月時点で1,160駅が登録されている。「道の駅」の発想は、平成2年1月に地域交流センターが中心となって広島で開催した「中国・地域まちづくり交流会」の中で山口県の船方農場代表の坂本多旦氏が、「道路にも鉄道の駅のような施設があっても良いのではないかと」発言されたことに始まる。そこで、参加者の賛同を得て、道路沿いに「駅」を作る実験事業が始まった。トイレに困った体験がきっかけなので、「道の駅」にはトイレが必須の設備になった。一方、「まちの駅」は①休憩機能②案内機能③交流機能④連携機能の4つの機能を持ったたまり場である。コンセプトは「道の駅」とあまり変わらないが公共機関に限らず民間商店やNPO等でも設置・運営できる点が大きく違う。「全国まちの駅連絡協議会」が認証しているといっても条件は緩くして駅長になる方の地域や人を思う気持ち、「おもてなし」の心を大切にしている。そのため個人商店や小規模施設から大型店舗や企業の工場、多機能施設など多種多様な主体が施設（の一部）を休憩&交流スペースとして開放し、「まちの駅」となっている。「まちの駅」をきっかけに思いを持った人同士がつながり、緩やかなネットワークが形成されている。

「道の駅」は、公共インフラとしての物理的作用により人々の利便性を高め、社会を支える機能も拡張している。一方の「まちの駅」では、街なかの様々な人々の出会いと語らいの中から人間関係の化学反応が起きて地域を変える力になっていくことが期待されている。両者の違いから「道の駅」として登録された施設が地域内外の交流・連携を求めて、まちの駅ネットワークに参加する例も増えてきている。

2.2 過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要

本ゼミでは平成19年度より、「まちの駅」をテーマに調査研究活動を行ってきた。最近5年間の活動概要は以下の通りである。なお、平成19年度から25年度の活動概要については、文献1を参照されたい。また、各年度の活動報告書については、長岡大学HP内の

「鯉江ゼミナールの取組 新潟まちの駅の紹介」

(https://www.nagaokauniv.ac.jp/gp_c/zemi25-01/index.html)

を参照されたい。

〈平成 26 年度〉

平成 26 年度は、新潟県内の新たにまちの駅となった駅や未調査（21 駅）をヒアリング調査した。ヒアリングでは、駅名や住所、電話番号などの基本項目の確認、店または施設の紹介・PR、まちの駅になった理由などをお聞きし、これらの情報を基にパネルを作成した。パネルは、それぞれの駅の基本情報や駅長からのメッセージ、駅の様子分かる写真等を載せた。また、学生それぞれが思い思いの「学生のつぶやき」を載せることで、よりそのまちの駅に興味を持ってもらえるようにした。そして、作成したパネルは学園祭（悠久祭）でパネル展として展示し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。

まちの駅全国大会に参加し、全国のまちの駅の方との交流を通して、各地域の取り組みや課題を共有化できた。

〈平成 27 年度〉

平成 27 年度は、新潟県内に新たに開設された糸魚川、三条、上越、越路、新潟（各 1 駅）の 5 駅と、長岡市組織変更により変更があった「ながおかまちの駅」の合計 6 駅をヒアリング調査し、パネルを作成した。

また、昨年度の成果発表会でアドバイザーの方から依頼された「各まちの駅がどのようなおもてなしをしているのかを調査し、各まちの駅の今後の活動の参考になるような情報を提供してほしい」に対応するため、新潟県内 127 のまちの駅に「おもてなし事例調査」を実施した。調査の目的については、まちの駅になって良かったと思うこと、自分のまちの駅の駅長さん自身でこれからどのような行動をしたらよいかを知ることである。

なお、有効回収数は 82 駅であり、回収率 64.6%であった。調査の結果。各まちの駅は、基本的な機能を果たしながら、来られたお客様に「おもてなし」の心で対応していることが分かった。

〈平成 28 年度〉

平成 28 年度は、『「まちの駅」をフィールドとした、活動等による地域活性化活動への貢献』をテーマとして、新潟県内まちの駅の調査研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。

まちの駅の調査研究では、長岡 19 駅、見附 12 駅、糸魚川 2 駅、新潟 2 駅、魚沼 1 駅、五泉 1 駅、の合計 37 駅のまちの駅のヒアリング及びパネルの更新を行い、学園祭やアオーレ長岡市民共同センターで展示、ホームページで掲載を行った。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて地域イベントへ参加した。また、まちの駅全国フォーラム in Tokyo、新潟県内まちの駅交流会にて各まちの駅の方々と意見交換を交えた交流を行った。

〈平成 29 年度〉

平成 29 年度は、新潟県内まちなかの駅の調査研究と地域活性化活動を行った。その他にまちなかの駅の情報発信活動として、まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェや株式会社ユアテック技術センター中越地区安全協議会第 27 回安全大会へ参加し本ゼミナールの活動発表を行った。もう一つのテーマでは「まちなかの駅」から越路地域の魅力発信を行った。越路地域の全 7 駅のまちなかの駅と連携し、越路まちなかの駅マップを作成した。作成したマップをもみじ園のイベントや悠久祭のパネル展で配布を行い越路地域の魅力発信ができた。

〈平成 30 年度〉

平成 30 年度は、新潟県内のまちなかの駅の紹介パネルの作成・更新、地域行事のボランティアを行った。この他に、まちなかの駅の情報発信活動として FM ながおかのラジオ番組「長大生と行く！まちなかの駅ヒアリング GO！！」を制作した。そして「第 21 回まちなかの駅全国大会 in 会津」に参加し、各地のまちなかの駅の現状・課題について意見を交わした。同時に本ゼミナールの活動発表も行った。また栃木県鹿沼市にある「まちなかの駅ネットワークかぬま」の方々を長岡市の越路地域に招待し、越路地域の観光スポットをご案内した。

3. 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネル作成

3.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順

ヒアリング調査を実施するまでに行った手順は以下の通りである。

<手順① まちの駅についての情報収集>

今までにゼミナールの活動で作成してきたパネルと「全国まちの駅連絡協議会」のWebページ内にあるまちの駅帖を比較し、パネルを作成していない駅の情報を「全国まちの駅連絡協議会」の事務局長である橋本正法さんに伺った。また、

「越後長岡まちの駅ネットワーク事務局」の方から新駅の情報を頂いていたため、そちらについても確認を行った。

<手順② アポイントメント>

ヒアリング調査を行う駅に電話でアポイントメントを取った。今年度は、駅長さんと学生の都合がなかなか合わないことがあり、日程決めに苦労した。

<手順③ ヒアリングの実施>

6月からヒアリング調査を実施した。まちの駅を始めたきっかけやその駅の特徴、アピールポイントなど様々なことを伺った。

3.2 パネル作成から完成までの手順

パネルの完成までの手順は以下の通りである。

<手順① 情報整理>

まずはヒアリング調査で得た情報をメンバー間で共有し、パネルに記載する情報の精査を行った。

<手順② パネル作成>

PowerPoint を使用してパネル作成を行った。ヒアリング調査で頂いた資料やまとめた情報を基に作成した。その駅の特徴を意識したデザインを考えることに苦労した。

また、実際に印刷してみると文字や写真の大きさ、色といった全体の雰囲気などがパソコンのディスプレイで見た時と異なることがあり、何度も作り直した。

<手順③ 仮完成>

完成したパネルを各駅にメールやFax等でお送りし、内容やデザインを確認して頂いた。

<手順④ パネルの修正>

修正箇所を頂いた駅に関しては、修正した後、もう一度メール等でお送りして確認して頂いた。

<手順⑤ パネルの完成>

駅長さんの了解を頂いて完成である。それぞれのまちの駅の特徴や個性が出せるよう工夫しパネルを作成した。

3.3 パネルの紹介

3.3.1 更新したパネルの紹介

今年度は、「まちの駅 リンクさぼーと」のパネルを更新した。また、1分間ラジオCMの取材で伺った10駅のパネルも更新したが、それらのパネルの詳細は後述する「6. まちの駅1分間CM」にて紹介する。

<まちの駅 リンクさぼーと>

「まちの駅 リンクさぼーと」では、家庭における電話やインターネットの整備、事業所向けのネットワーク設備の整備などを行っている。ケーブルテレビを長岡地域に普及させるためにまちの駅に入られたそうだ。

駅長の原田さんは、長岡地域のまちの駅の代表を務めておられる方で、まちの駅の活動を精力的に行っている。駅の中には休憩スペースがあり、立ち寄りやすい雰囲気となっている。

駅名を登録し直したと伺ったので、その部分を変更した。また、今年度のヒアリング内容を基に紹介文や写真、学生をつぶやきも変更した。さらに、駅のおすすめポイントとキャッチコピーを追加した。

この駅のキャッチコピーは、「おしどり夫婦が情報と人を繋げる（リンクする）駅」である。情報通信機器を通信（リンク）させるだけでなく、人同士も繋げる（リンクする）場所として力を入れて活動されており、ヒアリングした際にご夫婦の深い愛も感じたことから名付けさせていただいた。



中之島
地域

まちの駅 リンクさぽーと

(株) 原田通機



〒954-0124
新潟県長岡市中之島417-10
TEL: 0258-66-0821
FAX: 0258-66-0825
営業時間: 9:00~18:00
定休日: 第2・第4土曜日、日曜日、祝日

まちの駅紹介

ここでは、ご家庭における電話・インターネット・テレビや事業所様向けの電話設備・ネットワーク設備等を取り扱っているそうです。

まちの駅になったきっかけは、ケーブルテレビを長岡地域に普及させるためだそうです。そのため事務所を改装して、誰でもそこでケーブルテレビを見られるようにしたとのこと。

また駅長さんは、趣味で野菜を10年以上育てています。これはお孫さんに美味しい野菜を食べさせたい思いで始められたそうです。

そして季節によっては、大切に育てた観葉植物を来場者に無料で配布し喜ばれています。



オススメPOINT!

- ・ 駅長と副駅長さんの笑顔
- ・ 交流をテーマにしたスペース
- ・ 副駅長さんが人生相談に乗ってくれること

学生のつぶやき

こちらの駅長さんは長岡地域のまちの駅の代表でもあることから、より良いまちの駅作りに尽力されているなど感じました。

近藤孝洋



キャッチコピー・・・「おしどり夫婦が情報と人を繋げる(リンクする)駅」

情報通信機器を通信(リンク)させるだけでなく、人同士も繋げる(リンクする)場所として力を入れて活動されています。また、ヒアリングした際にご夫婦の深い愛も感じたことから名付けました。

令和元年度編集

3.3.2 パネルを作成した駅の紹介

今年度、新しくパネルを作成した駅は以下の通りである。

- ・『はたけの駅』
- ・『むらの駅 よってけ亭～』
- ・『ひとと温泉があたたかい駅 麻生の湯』
- ・『ミルクステーション』

<はたけの駅>

「はたけの駅」は、三条市内にあるまちの駅で、地域の農家の方が作られた野菜や果物などの農産物を直売している。その他にも、季節の果物を使ったスムージーやスイーツを販売しており、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方が利用されている。また、農産物の情報だけでなく、地域の様々な情報を聞くこともできる。

駅長の樋口さんは、農家の仕事や地域の農産物をアピールするために見附のどまいち等のイベントにも積極的に参加している。また、農作業にマイナスのイメージを持っている人に、農作業の良さを知ってもらえるような活動を今後行っていきたいと仰っていた。

この駅のキャッチコピーは、「三条の青果と笑顔が迎える、地域もりあげ隊」である。三条の農家の方が育てた新鮮な青果と、店内に溢れるスタッフの皆さんや地域の方々の笑顔が、立ち寄った人を迎えてくれるという印象を受けたことと、地域をさらに盛り上げていきたいという駅長さんの思いから名付けさせていただいた。



三条
地域

はたけの駅



「つばさんフルーツ通りふるふる」

まちの駅
紹介

はたけの駅は、地域の農家の方が作った農産物(※1)を販売しています！直売所ならではの珍しい旬の果物を販売！さらに季節の果物を使ったスムージーやスイーツを販売しています!(^^)!

この駅では、ちびっ子からおじいちゃん・おばあちゃんまで幅広い方がお買い物されています(≥▽≤)

駅長さんは農家の仕事や地域の特産物をアピールするために見附どまいち等のイベントへ参加しているそうです。また、駅は小学生の職場体験としての場にもなっています！

(※1)青果物、旬の一覧表

越後姫(イチゴ)	1月下旬～
さくらんぼ	6月～
モモ	7月初旬～
ぶどう	7月中旬～
洋梨	11月下旬～
トマト	6月～8月
ナス	6月～9月

学生のつぶやき

農産物の情報だけでなく、地域の情報を県内各地から来店されるお客様に発信している姿勢が素晴らしいと感じました。

駅長さんの樋口さんは、農作業のイメージをマイナスに考えている人に農作業の良さを知ってもらおう活動を今後行っていきたいそうです。

16k071 山城時生

キャッチコピー

「三条の青果と笑顔が迎える、地域もりあげ隊」

理由・・・三条の農家さんが育てた新鮮な青果と、お店の方とお客様が笑顔で話されていることと、駅長さんが地域を今後盛り上げていきたいという思いから付けさせていただきました。



住所:新潟県三条市太島4261-1

Tel: 0256-46-0785

定休日:水曜日

営業時間:09:30～18:00(8月)

10:00～18:00(冬季営業時間)

Facebookアカウント名:ふるふる

令和元年編集

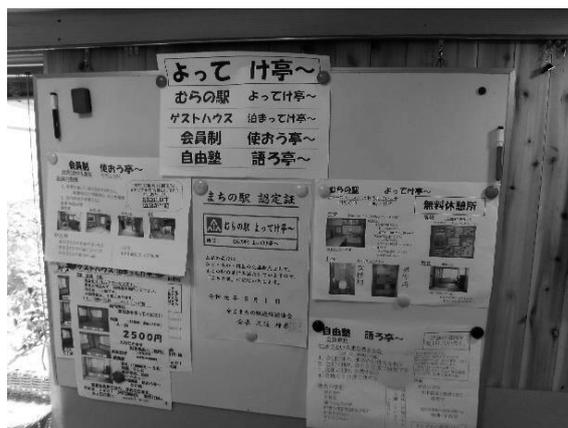
<むらの駅 よってけ亭～>

「むらの駅 よってけ亭～」は、弥彦地域に初めてできたまちの駅である。無料で休憩ができる他に、簡易宿泊所としても利用できる。また、お金を払えば部屋を貸し切ることもでき会議などにも使用できる、多機能型の駅である。

この駅は、「空いている空間を、地域活性化のためにどのように活かせるか」という悩みを持つ方のモデルになりたいという駅長さんの思いから始められたまちの駅である。

また、ご自身で「地域の人達とこの地に訪れてくれた人たちが自由に集えコミュニケーションを取り、夢を語り、地域活性化のやり方を学び、皆で情報交換をし、楽しい空間、時間を作っていきたい」というスローガンを掲げ、地域活性化活動を行っているという。この他にも、「弥彦明るい未来を考える会」に所属しているなど、地域のための活動を惜しまない非常に精力的な方だと感じた。

この駅のキャッチコピーは、「YY(ワイワイ)の駅」である。最初のYは、よってけ亭～のYだ。2つ目のYは、弥彦で最初の駅であるため、弥彦を引っ張っていくという思いを込めて弥彦のYをつけた。また、ここに集まって、ワイワイと楽しく話をする場を目指しているという駅長さんの思いも、理由の一つである。





むらの駅よってけ亭～ ゲストハウス泊まってけ亭～

まちの駅概要

よってけ亭は、「空間を利用して、地域の活性化を目的にどのように活用したらよいかのモデルにしたい」という駅長さんの考えから始められました。

駅長さんは、このようなモデルとなるために以下のスローガンを掲げています。「地域の人達とこの地に訪れてくれた人たちが自由に集えコミュニケーションを取り、夢を語り、地域活性化のやり方を学び、皆で情報交換をし、楽しい空間、時間を作っていきたい」

そしてこの駅（写真右上の空間）には、4つの機能が備わっています。

1つ目は、意外休憩機能「よってけ亭」です。場合によっては、駅長さんが不在の時間があるかもしれませんが利用は可能なので、お気軽に立ち寄ってみてください。

2つ目は、簡易宿泊機能「泊まってけ亭」です。部屋を見学してから予約出来るのでご検討ください。

3つ目は、会員制の「使おう亭」です。お金を払えば、部屋を貸し切る事ができ、宿泊料金が半額になります。

4つ目は、自由塾「拾ろ亭」です。駅長さんは、「拾考明るい未来を考える会」にも所属されていて、拾考の活性化に尽力されています。



近くには、国の有形文化財に登録されている旧鈴木家の邸宅があります。こちらには、あの岩倉具視も宿泊したことがあり、歴史的価値のある建物です。ぜひこちらも、見てみてください！！

こちらの駅のキャッチコピーは・・・

「YY(ワイワイ)の駅」です。最初のYは、よってけ亭～のYです。2つ目のYは、弥彦で最初の駅なので、弥彦を引っ張っていく思いを込めて弥彦のYを付けました。また、ここに集まって、ワイワイと楽しく話をする場を目指しているということで名付けました。



学生のつぶやき

私の祖母と駅長さんが同じ職場で働いていたと知り、驚きました！本当に、どういふ出会いがあるのか、分からないものだなと思いました。

近藤孝洋

〒959-0323

新潟県西蒲原郡弥彦村大字弥彦1284

電話番号：090-7280-0843

休憩所開放時間：10時～15時

定休日：なし

令和元年度作成

<ひとと温泉があたたかい駅 麻生の湯>

「ひとと温泉があたたかい駅 麻生の湯」は、長岡市内にあるまちの駅で、天然温泉が楽しめる日帰り温浴施設である。学生割引や日帰り BBQ なども行っており、若者からお年寄りまで楽しめる施設となっている。寝ころび処や漫画が置いてあるスペースもあり、一日中居ても飽きないような工夫があちらこちらにされていた。また、マッサージや無料で利用できる足湯も設置されているため、歩き疲れた時にはぴったりなまちの駅だと感じた。

なお、食事のみの利用も可能である。地元の麻生田町の旬の食材を使った料理は絶品だ。ソフトクリームやケーキセットなど食後のデザートも充実しており、女性にも嬉しいメニューのラインナップとなっている。

この駅のキャッチコピーは、「温泉と人との交流で温まる駅」である。様々な年代の方が集まる場所で地元の方や従業員のみなさんとの会話で心が温まり、さらに足湯や温泉でも体が温まる。実際に社長さんからお話を伺い、このように感じたため名付けさせていただいた。



長岡
地域

まちの駅 麻生の湯 【天然温泉 麻生の湯】



〒940-0806
長岡市麻生田町南谷2063
■TEL: 0258-31-9300
■FAX: 0258-44-7220
■開業時間: 火曜日 9:30~23:00
その他 9:30~0:00

自然に囲まれた日帰り温浴施設です。綺麗な館内で食事だけでも可能で、リラクゼーションも利用可能です。

お食事処も麻生田産の食材にこだわっています。足湯も無料開放しており、家族連れからお年寄りまで幅広く、最近では日帰りBBQや学生割引なども行っていて若い利用者の方も増えているそうです。

温泉好きの方、ちょっとした旅行気分を味わいたい方はぜひ訪れてみてください！



無料の足湯が
解放されています！
訪れた際はぜひお試
しあれ！

学生のつぶやき
とてもきれいな館内で
くつろぎやすくりラク
スできる空間でした。
漫画がおいてあるス
ペースもあり様々な
年代の方が楽しめる
工夫がたくさんありま
した！従業員の方々
もとても良かったです。

こちらの駅のキャッチコピーは…「**温泉と人との交流で温まる駅**」です!!
様々な年代の方が集まる場所で地元の方や従業員の方々との会話で心が温まり、足湯や温泉でもさらに温まります。実際に社長さんからお話を伺い、そう感じたので名付けました！

令和元年度 作成

<ミルクステーション>

「ミルクステーション」は、見附市内にある、牛乳や飲むヨーグルト等の乳製品を各家庭に配達している駅である。お店は見附にあるが、長岡や三条など見附地域以外にも配達を行っているそうだ。その他にもお米やトイレトペーパーなどの重い物もサービスとして配達している。また、様々な地域や公共施設等で骨密度測定なども行っている。店の前には 50m 程の花壇があり、通る方々が良い気持ちになるような工夫がされている。

駅長の原田真一さんは、地域活性化に尽力されている方で、鯉江ゼミが主催した「まちの駅 交流会」にも参加して下さった。また、非常に優しい方で、ヒアリング後に飲むヨーグルトをお土産として下さった。

この駅のキャッチコピーは、「乳製品で町内（腸内）活性化の駅」である。乳製品を通して、腸内だけでなく、街の活性化にも取り組まれている駅だと感じたため、このように名付けた。





(株)石坂乳業 見附支店
ミルクステーション



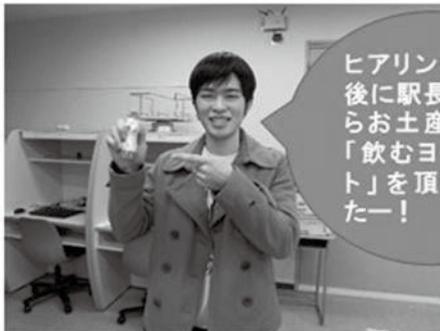
【まちな駅紹介】



こちらは見附市を中心に、栃尾や四日町地域等に乳製品やお米、トイレットペーパー等を配達しています。そしてアフターサービスとして、定期的に無料で、ご自宅や公共施設などで骨密度測定もやっています。

また、こちらの駅長さんである原田真一さんは「新潟県内まちな駅交流会」に参加する程、アクティブで明るく優しい方です。

駅の前には、長さ50m程の花壇があります。手入れする前は、平気でゴミを捨てていく愚か者がいたそうですが、手入れ後は愚か者が減少したそうです!!
こちらを通った際は、ぜひ色とりどりの花々を見て季節を感じてください。



ヒアリング終了後に駅長さんからお土産として「飲むヨーグルト」を頂きましたー!

そして、こちらの駅のキャッチコピーは…

★ 乳製品で 町内(腸内)活性化の駅

健康に生活を送りながら、より一層、地域が活性化する願いを込めて、このキャッチコピーにしました。



〒954-0111
新潟県見附市今町7-17-36
☎0258-61-2080 📠0258-61-2140
営業時間 7:30~19:00 休業日 日曜日



ヒアリングの中で、同じ牛乳でも紙パックとビンで味が違うことを知り、勉強になりました。

近藤孝洋

令和元年度 編集

4. 悠久祭

4.1 模擬店「国際交流ツイワンの駅」

4.1.1 概要

今回、留学生との交流を深めたいという意図もあり、モンゴル料理「ツイワン」の模擬店を企画した。ツイワンとは、麺と野菜、肉を炒めて作るモンゴルの家庭料理である。悠久祭の2日間で当初の目標140食のところ、144食という売り上げを達成する結果に至った。

(1) 日時

令和元年10月26日（土）27日（日）

(2) 場所

長岡大学屋外

4.1.2 活動の流れ

(1) 模擬店準備

本場モンゴルの味を提供できるようにするため、試作会を2回行った。加えて、留学生との話し合いの場を設けることに注力した。最終的に単価は300円で、比較的手が出しやすい値段に設定し、容器も持ち帰りがしやすい蓋つきプラスチック容器を採用した。準備の段階で、情報の共有が十分に出来ていないところもあったので、次回模擬店を出す際には気を付けたい。

(2) 模擬店当日

当日は2号館5階の教室から、出来上がった麺の生地を外まで運ぶ作業が大変だった。生地は薄く柔らかいため、互にくっついてしまい、何度か作り直さなければならないというトラブルもあり、麺作りに随分と時間がかかってしまった。また、当日は雨が降っており、来場者が少ないため売り切れるか不安もあった。しかし、ゼミナール生全員が協力をし、声を出して呼び込みをしたこともあり2日間で144食の売上を達成することができた。買っていただいた方からの評判も良く、美味しそうに食べていただいているお客さんが印象的だった。

4.1.3 まとめ

今回の模擬店企画は、留学生の協力なしではできないので、必然的に話し合う場が設けられた。普段、あまり会話がなかった日本人学生と留学生がコミュニケーションを取る場が与えられたことで、知らずのうちに出来ていた留学生と日本人学生の壁を取り払うことができたのではないかと感じた。悠久祭当日は、お互いに助け合ったり励ましあったりと、コミュニケーションが活発だった。今回の全体的な目標は、140食を売り上げることだったが、それ以上にゼミナール全体の仲が深まったことが大きな成果なのではないかと思う。

4.2 パネル展

4.2.1 概要

毎年開催している企画であり、今年は新駅のパネル3つを加えた新潟県内の約130駅のパネルを展示した。悠久祭の2日間で約170人が来場した。

(1) 日時

令和元年10月26日（土）27日（日）

(2) 場所

長岡大学216教室

4.2.2 活動の流れ

(1) パネル展準備

今回は、新駅3つを加えたパネルを用意した。また、更新した「新：越路マップ」と「旧：越路マップ」を比較する展示も行った。教室の入り口に、のぼり旗を置くなどして人の目を引き付けるような工夫も施した。

(2) パネル展当日

来場者へ、まちの駅とはどのようなものを説明したり、パネルについての質問などに答えたりした。まちの駅自体を知っている人もいたが、やはりまちの駅自体の機能は知らないという人が多かったようである。パネル一枚一枚を真剣に見ては、思わぬ場所がまちの駅になっていると知って驚いたり、盛り上がったりしていた場面もあったのが印象的だった。

4.2.3 まとめ

パネル展を通して、まちの駅の知名度は上がっているものの、具体的などころまでは知られていないということに気づかされた。まちの駅自体は知っているが、何をしているかまではわからないという方が多かったように感じる。今回、その方たちに向けて、まちの駅とはどのようなものを説明をしたり、各パネルの紹介を行ったりすることで、自分自身のまちの駅に対する理解も深まった。次回のまちの駅パネル展では、ただ展示を行うだけなのではなく、アンケートを用意してまちの駅に対する認識について調査したいと思った。



悠久祭の様子・模擬店



悠久祭の様子・パネル展

5. ボランティア活動

5.1 まちの駅&どまいち 春の物産フェア

5.1.1 概要

「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」は、ネーブルみつけにて、平成 31 年 3 月 10 日に開催されたイベントである。全国のまちの駅のネットワークを活かし、北海道から沖縄まで各地の名産品を「新潟ど真ん中市場 どまいち」と共同で販売した。

「新潟ど真ん中市場 どまいち」は、現在一大市場となったインターネットショッピングに、見附の店舗が集まるショッピングモールを構築し、全国に向けて見附の名産品や各種情報を発信することで、見附市をより知って身近に感じてもらう、首都圏との交流を促進し地域づくりを目指すものであり、平成 21 年度から開設されている。

今回、ゼミ生は物販とガラポン抽選会の運営ボランティアとしてこのイベントに参加した。



(1) 開催日時

平成 31 年 3 月 10 日 (日)

(2) 場所

市民交流センター ネーブルみつけ

(3) 主催

まちの駅ネットワークみつけ

(4) 参加者

< 学生参加者：学年は開催当時のものである >

学年	氏 名
3 年	小出優花、近藤孝洋、山城時生
2 年	大竹一輝、小林萌香

< 当日参加したまちの駅 一覧 >

地区・県	駅 名
見附	お菓子の駅、水車小屋の駅、(株)健康な住まいの駅、カーライフステーション、(有)四季の駅、(株)お菓子のマルシェ、パンの駅、げんきの駅、抹茶の駅、そば一筋の駅、焼肉と韓国家庭料理の駅、まちの駅サービスステーション、森の駅、学びの駅、川の駅 見附市総合体育施設、里山ログハウスの駅、(株)ミルクステーション
福島	まちの駅 野馬追通り銘醸館、まちの駅 ネットワーク伊達、まちの駅ネットワークふくしま



長岡	(株) まちの駅 菓子処 越後物語、まちの駅もてなし家、 (有) 手作り漬物の駅
糸魚川	まちの駅リサイクルショップひめかわ

5.1.2 まとめ

物産品販売、ガラポン抽選会共に大盛況で、イベント開始から終了時まで客足が途絶えることがないほどであった。地元見附の方々や様々なまちの駅の方とコミュニケーションをとりながら運営を行ったことで、会場設営や撤去も非常にスムーズに進んだ。

物産品販売では、他県の物産品を販売することに慣れず、イベント開始直後は思うように売ることができなかつた。しかし、一緒に販売を行っていたスタッフの方からアドバイスをいただき、積極的に声を出していったことで、お客様も足を止めて商品を見てくださいる機会が増え、「物を販売する」という行為の大変さと楽しさを知ることができた。イベント終了時には、全ての商品を売り切ることができた。

ガラポン抽選会は、抽選券4枚でガラポンを1回引くことができるというものだったが、一度に多数の抽選券を持ってくるお客様が多く、枚数を数えることが非常に大変だった。中には12回分の券を持っているお客様もいて、休む暇もなかったほど忙しかったが、終わった後には達成感とやりがいを感じ、学生自身も楽しめた活動であった。

今回、イベント初参加のゼミ生がほとんどだったが、スタッフの方の支えもあり、滞りなく活動することができた。また、地元の方や様々なまちの駅の関係者の方と交流を深めることができ、コミュニケーション能力も向上した。今後も、新潟県内のまちの駅だけでなく、様々な地域のまちの駅の方々と交流を深めていきたいと考える。

5.2 花はすボランティア

5.2.1 概要

上通小学校の生徒達がバケツで育てている蓮に水をあげるボランティアを3年生で行った。7月30日には上通小学校の生徒も参加し、水やりの手伝いをした。

(1) 日時

令和元年7月25日、7月30日、8月5日

(2) 場所

アオーレ長岡

(3) 参加学生

学年	氏名
3年	大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子



5.2.2 まとめ

バケツに水をくみ、蓮に水をあげる班とホースを引いてシャワーで蓮に水をあげる班の2班に分かれて活動を行った。炎天下での作業は大変であったが、小学生が丹精込めて育てている蓮が花開いていく過程を見ることができ、達成感があった。

また、小学生が参加しての活動については、なるべく生徒に水やりをさせるためにサポートを行った。小学生との作業は気を使う場面も多々あったが、協力していく中ですぐに仲良くなり、たくさん会話を交わすことができた。



5.3 とうきび観音まつり

5.3.1 概要

(1) 起源

江戸末期に栃尾地域で厳しい食糧難が起こった。その際、観音寺の住職がとうもろこし(とうきび)を配り作付けを教え広めた事を忘れないために聖観音の命日にあたる毎年8月10日に無病息災・家内安全のお祈りをし、参拝者にとうもろこしを配るお祭りである。

(2) 日時

令和元年8月10日(土)17:00~21:00

(3) 場所

観音寺・谷内通り商店街

(4) 主催

観音寺・谷内通り商店街



(5) 参加学生

学年	氏名
4年	岡部真也、近藤孝洋、山城時生
3年	智野虎太郎、沼沢純子、アルタンチメグ・デルゲルマー

(6) 役割

イベント名	担当者
1円玉ゆらゆらゲーム	沼沢純子、アルタンチメグ・デルゲルマー
スーパースクイ	岡部真也、山城時生
輪投げ	近藤孝洋、智野虎太郎

5.3.2 主な活動内容

(1) 1円玉ゆらゆらゲーム

水の入った水槽の中に器が3つ設置されている。その水の上から器めがけて1円玉をゆっくり入れ、ゆらゆらと落ちる1円玉を見事器に入れることが出来たら景品を貰うことが出来るゲームである。1回のゲームに100円または事前に商店街で500円分の買い物をする と貰える引換券5枚で遊ぶことが出来る。

屋台の運営をする際、ゲームのルールを理解することは大変だったが、お店の方がその都度サポートしてくださったため、最後は1人で店頭に立つことが出来た。

(2) スーパーボールすくい

金魚すくいと同じ要領でポイを使い、大小様々なスーパーボールを小さめのお椀にすくい入れ、お椀いっぱいになるまで遊べるゲームである。これも100円または引換券5枚で

1回遊ぶことが出来る。

このお祭りのボランティアは初めてだったため戸惑いもあったが、一緒に屋台の運営をしてくださった高見屋食堂の方がやさしく迎えてくださり心が温かくなった。また活動中に子供たちが楽しんでいる姿が見られたため、とても有意義な活動となった。

(3) 輪投げ

おもちゃやお菓子・飲み物が点在している中、ラインからはみ出さないように、狙いを定めて輪を投げるゲームである。ラインは2本あり、年齢に応じて分けられた。これも上記と同様に100円または引換券5枚で1回遊ぶことが出来る。投げた際に、複数の景品が重なった場合は、どの景品が良いか選択させた。

序盤は単価が安めなお菓子や飲み物を多く配置し、終盤は単価が高いおもちゃを配置した。途中、お客さんが多く来られたため、急遽景品が置いてある台を移動した。終わってみると景品は全て渡し切り子供たちの笑顔に包まれていた。



5.3.3 まとめ

今年のとうきび観音まつりは、昨年よりも多くのメンバーで参加した。準備から片付けまで栃尾地域の方々と協力して行った。依頼元である「日本茶の駅」の広野さんは「伝統あるこのお祭りをこれからも続けていきたいが、運営の担い手が不足している状態にあるため、学生の力が必要」と仰っていた。また、学生がお祭りの運営側として参加することで、地域の方々とコミュニケーションを交わしながら活動できるため親密な関係を築き、楽しんで地域活性化に貢献出来ると思われる。同時に世代間交流が行われるため「社会人基礎力」の向上が期待出来ると思われる。今後も引き続き栃尾地域を盛り上げるべく、楽しんで参加していきたい。

5.4 ながおか市民活動フェスタ'19

5.4.1 概要

当日は、市民協働センターの方と車両誘導や運営の手伝いを行った。さらに、市民協働センターの太田さんの提案で当日「まちの駅 手作り漬物の駅」の内藤さんと、「まちの駅 酒蔵のある里」の平田さんが参加されており、お二人のお店のお手伝いと平成 29 年度作成した「越路まちの駅 いこ～てえ～マップ」を 10 月に越路で行われるもみじ園の宣伝を兼ねて配布した。

(1) 日時

令和元年 9 月 7 日（土）

(2) 場所

アオーレ長岡

(3) 参加者

学年	氏名
4 年	岡部直也、近藤孝洋、山城時生



5.4.2 まとめ

ゼミナールとしては、今回が市民活動フェスタには初参加で今まで活動してきたボランティアよりも規模が大きいイベントであった。急遽ボランティアの願いがあったため、当日参加できる学生が少なかった。

長岡市から多くの団体が集まり自分たちが行っている活動を紹介しているので、学生も休憩中に各団体のお話を聞いて理解を深めたり、以前別のボランティアにてお世話になった方と再会したりと、今までに無い活動の楽しみ方をしていた。

活動を通じて、長岡市が市民と協力して町おこしをしているのだと感じた。また、来年度は、鯉江ゼミナールとして参加し、まちの駅の PR 活動を行うことでまちの駅の知名度が向上するのではないかと考える。

5.5 今町まちなかマルシェ 2019

5.5.1 概要

(1) 日時

令和元年 9 月 29 日(日)10:00～16:00

(2) 場所

今町商店街大通り・今町子育て支援センターいままち悠久駐車場・大風伝承館および
野外特設テント村・第四銀行今町支店駐車場

(3) 主催

今町ホームスタンプ会・モノの市実行委員会「monorim」(モノリム)・今町まちなか
コミュニティ

(4) 参加学生

学年	氏 名
4 年	岡部真也、近藤孝洋、山城時生
3 年	智野虎太郎、小林萌香、沼沢純子

(5) 役割

イベント名	担 当 者
お楽しみ抽選会	岡部真也、智野虎太郎
スタンプラリー抽選会	近藤孝洋、山城時生
屋台村	小林萌香、沼沢純子

5.5.2 主な活動内容

(1) お楽しみ抽選会

9 月 20 日(金)～9 月 29 日(日)当日まで今町ホームスタンプ会に加盟しているお店で
500 円のお買い物ごとに補助券 1 枚と交換出来る。その補助券 2 枚で、1 回抽選出来る
ものである。景品には加盟店の豪華商品や 1 万円のお買い物券が用意された。

開始直後と終わり頃に大勢のお客さんが来られて、対応に四苦八苦する場面があった。
最も多い方で 150 枚持って来られる方がおられた。

また 14:00 から「タイムサービス」を開始した。これは先着 60 名の方が補助券 1 枚と
100 円で「立川の玉子ビタ卵 ED(1 パック)」もしくは「ティッシュ BOX(5 個組)」と交換
出来るものである。

セール前から大勢のお客さんが並んでいて驚いた。そして用意していた景品がすぐに
無くなるほどの賑わいを見せた。

(2) スタンプラリー抽選会

パンフレットがスタンプラリーの台紙となっており、「特得バザール」「モノの市」「企業出店コーナー」でそれぞれお買い物をするとスタンプが押される。3つ全てスタンプを集めると抽選出来るものである。景品には、里見、大衆焼肉きらく、マルイで使えるお買い物券等が用意された。

スタンプラリーは場所が端だったためか、残念ながらあまりお客さんが来なかった。そんな中お客さんが来られた際は、出てきた色に問わず鐘を鳴らして盛り上げた。また合間に、ゴミ箱の点検や見附市のマスコットキャラクター「みっけちゃん」の補佐役も行った。

(3) 屋台村

自営業をされている方からそうでない方まで、お店が7つ出展されていた。例えば、今回私がお手伝いをさせていただいたお店は、長岡商工会議所の職員の方が、やきそばを作って売っていた。手慣れた手つきで大量の焼きそばを作っているのが印象的だった。また、「フレンド」のイタリアン、ぎょうざ、「ひな鳥金子」の半羽から揚げを販売している際に、お買い物に来てくださる地域住民の方と何気ない会話を交わすことができ、とても楽しかった。そして私たちが販売していた商品もすべて完売することが出来た。

5.5.3 まとめ

昨年は台風の影響で中止となったが今年は開催することが出来た。しかし、あいにくの雨の中での開催となった。しかし、地域住民の方々と協力して、イベントを盛り上げる事が出来た。私達は出店者の方から、やきいも・やきそば・からあげ・コーヒー等をご馳走になり、とても嬉しかった。街中が人の声であふれている様子を見ると、心がほんのり温かくなるような感じがした。地域住民の方々が進んで、このようなイベントを開くことが地域の活性化にも繋がるのではないかと思った。



6. まちの駅 1 分間 CM

6.1 概要

これは、まちの駅をフィールドとして調査・研究を行っている私たち学生が、昨年度行った 5 分間ラジオ番組のステップアップ企画として活動したものである。長岡市内にある越後長岡まちの駅ネットワーク参加駅のうち 10 駅にヒアリング取材を行い、ラジオ原稿を作成した。

6.1.1 事業目的

この事業の目的は、次の 3 つである。

- ・「まちの駅」の認知向上を目指し、身近で利用しやすいコミュニティの場であることを周知させる。
- ・「まちの駅」関係者へのヒアリング取材を通して、「まちの駅」それぞれの魅力や特徴を改めて認識する。
- ・放送する時間帯を限定させず、広い時間帯で流すことにより幅広い層に「まちの駅」を訴えかける。

6.1.2 放送について

放送は、FMながおかにて 10 駅をそれぞれ各 5 回ずつ行われる。

放送日は 1 月 6 日から 28 日である。

(1) 取材先のまちの駅〈越後長岡まちの駅ネットワーク参加駅 10 駅〉

駅名	店名
① 花火の駅・長岡花火ワールド悠	花火の駅・長岡花火ワールド悠
② ぎんなんアイスクリームの駅	(有)山岸モーターズ
③ まちの駅 養楽館	養楽館
④ まちの駅 セピア色のまち摂田屋星野本店	(株)星野本店
⑤ まちの駅 人生の交差点	与板刃物工芸館
⑥ あぶらげ巻き寿司の駅	食堂たからや
⑦ まちの駅 菓子処 越後物語	(株)西山製菓
⑧ まちの駅 よってげさ	おぐま酒家
⑨ まちの駅 松田ペット	(株)松田ペット
⑩ まちの駅 越後川口やな場	越後川口やな場

(注)○番号は放送順である。

(2) 参加学生

学年	氏名
4 年	岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生
3 年	大竹一輝、小林萌香、小山 陸、智野虎太郎 沼沢純子、アルタンチメグ・デルゲルマー

(3) 協力

- ◆越後ながおかまちの駅ネットワーク
- ◆NPO 法人市民協働ネットワーク長岡
- ◆FMながおか

(4) 企画名

長岡大学プレゼンツ☆まちの駅1分間CM企画

(5) 内容

ヒアリングで得た情報をもとに学生が二人一組となりラジオ原稿を作成し収録を行った。学生同士の掛け合いだけでなく、学生が考えたその駅のキャッチコピーや取材したまちの駅の駅長さん自身の言葉を盛り込み、「まちの駅」の魅力を発信する。

(6) 放送までの流れ

(6-1) FMながおかの打合せ

インタビューの極意や機材の使い方などを教わる。

(6-2) 選考及びアポイント

FMながおかの案を参考に、学生がまちの駅を10駅選ぶ。その後、学生が各自で電話でのアポイントを行う。

(6-3) 取材(ヒアリング)

取材先のまちの駅に赴きヒアリング調査を行い、ラジオのためのインタビューや駅長さんのコメントを収録する。

(6-4) 原稿、キャッチコピーの遂行

ラジオで実際に流す原稿とまちの駅のキャッチコピーの推敲を行う。

(6-5) 収録

ラジオ音源を収録し、駅長のコメントと共にFMながおかに送付する。

6.1.3 感想

以下は実際にラジオ活動に参加した学生の感想である。

- ✓ステップアップ企画ということで難しい企画ではあったが、やりがいを持って活動することができた。
- ✓まちの駅の駅長さんも積極的に協力してくれたのでスムーズに収録が進んだ。
- ✓初めて訪れたまちの駅もあったため、改めて魅力を知ることが出来た。
- ✓アポイント取りや日程調整まですべて学生が主体となり行ったため、計画力や実行力が養われた。

6.1.4 反省点・課題

今回の活動を通し、まず感じたことは「まちの駅」の魅力はまだまだ引き出せるということである。ある駅にヒアリングをした際に、あなたの駅の魅力は何ですかと尋ねると、仕事として毎日活動しているとわからなくなってくるという言葉聞いた。そこで、我々学生がこういった活動を通して魅力を改めて引き出し、発信していくことが課題であると感じた。

しかしその一方で、ヒアリングの際に緊張してしまい話したいことがうまく伝えきれない、学生間での情報伝達がうまくできず、ラジオの収録が遅れてしまうなどといった諸問題も発生した。今後、このような事態にならないよう失敗の原因を探り、その対策を考え対処していくかが課題である。

6.2 まとめ

今回の活動は前述にもあるように、昨年度に越後ながおかまちの駅ネットワークの方々やFMながおかと協力して行った5分間ラジオ番組のステップアップ企画である。

5分間ラジオ番組の反響として、まちの駅の駅長・駅関係者からは、「まちの駅を若い方に知ってもらえてよかった」や「慣れないながらも一生懸命取材していて素晴らしい」という意見を頂いた。またラジオを実際に聞いたリスナーからは、「まちの駅を身近に感じた」や「もっとまちの駅を知りたい」、「隔週でなく毎週流して欲しい」といった非常に好意的な意見を多く頂いたことから、1分間ラジオ番組へとステップアップすることが出来た。

今回の企画の目標は、昨年度の番組よりも放送する時間帯を絞らずに広い枠で流すことで、より多くの「まちの駅」の魅力をより多くの人にアピールすることである。1分間という短い時間のなかで、まちの駅の魅力、学生が付けたキャッチコピー、駅長さんの言葉など多くのフレーズをコンパクトにまとめあげ1分間CMは完成した。

昨年度のラジオ番組とは異なり、CMとして何度も繰り返し耳にするものであり、イヤイヤキャッチになる言葉を探しつつ、くどい文章にならないようにラジオ原稿を推敲した。また収録する際には強調したい部分は声のイントネーションを変える、ハキハキと話すなどリスナーが聞きやすく、こちらが伝えたいことが伝わりやすいようにする工夫を凝らした。

またラジオ収録のためのヒアリングに伴い、鯉江ゼミナールで制作したまちの駅パネルの更新も行った。

活動を通し、ヒアリングをするときにはただ質問を投げかけるだけでなく、相手が話したいこと、伝えたいことを引き出し相手の話を聴くことの重要性を感じ取ることが出来た。来年度はこの活動経験を活かしながらまちの駅のヒアリング活動に繋げていきたい。

6.3 CMを作成した駅のパネル紹介

CMの収録にあわせて、各駅のパネルの更新を行った。以下、それを紹介していく。

<花火の駅・長岡 花火ワールド 悠>

こちらの駅は、ご夫婦で全国各地の花火の情報をお届けする「花火博物館」として活動している駅であり、無料で入館出来る。また、全国各地から花火マニアが集まり、情報交換の場所ともなっており、花火の話に花を咲かせている。

ご夫婦が退職後に「いつまでも元気な日々を送っていきたい」と思ったことがきっかけで、まちの駅を始められたそうである。ご夫婦にとって「元気な日々を送る」とは、自分たちと来られた方がこの場所で「笑顔」を共有し続けることである。そのため気軽に寄りやすくするため、儲けることは考えずにボランティアとして行っている。

駅長の長谷川栄久子さんは、エレクトーンのパフォーマンスをしてくれます。それ以外に腹話術も披露していただけます。腹話術は、小学校の校長に就任されている際に児童に披露していたそうである。

今回主に更新した箇所は4つである。「歌声喫茶」の情報を追加、午後の開業時間の変更、新たにこちらの駅にキャッチコピーを付けたこと、「学生のつぶやき」を変更したことである。

そしてこの駅のキャッチコピーは「花火と音楽で広がる人の笑顔」である。館長の花火の熱意や駅長さんのエレクトーン演奏に魅了され笑顔に包まれたため、このキャッチコピーにしました。



長岡
地域

花火の駅・長岡 花火ワールド 悠



〒940-0853 長岡市中沢3-525-7
■TEL・FAX/0258-34-8731
■開業時間/10:00～12:00
14:00～16:00
■お休み/月曜日～水曜日

まちの駅紹介



長年、花火の研究を行っている館長の長谷川健一さんと、人と接する事が大好きな駅長の長谷川栄久子さんが2人で行っているミニミニ花火博物館です。

ギャラリーカフェとしてコーヒー（200円）を飲みながらいろいろな人と交流できる花火交流施設です。

花火好きの人が多く集まり花火の話に花を咲かせています。

毎月第1火曜日10:30～11:30は「歌声喫茶」（500円）があり、駅長さんのエレクトーンで楽しく歌います。

カフェスペースは、アマチュアカメラマンの作品の展示ギャラリー。(毎月変わります)



ショップコーナーは、夏限定でおみやげ販売をしています。



この駅のキャッチコピーは…

「花火と音楽で広がる人の笑顔」です！

館長さんの花火の熱意や駅長さんのエレクトーンに魅了され笑顔に包まれたので、このキャッチコピーにしました。



学生のつぶやき

駅の雰囲気やご夫婦の人柄がとても馴染みやすいです。ぜひ、足を運んでみてください。

近藤 孝洋

令和元年度編集

<ぎんなんアイスクリームの駅>

駅長さんは、小国地域に群生していたイチョウの木からとれるぎんなんを何かに使えないかと考え、アイスを作ることを思い立ったそうである。食べてみるとなめらかなアイスにほんのりとぎんなんの香りがして、また刻んだぎんなんも入っており、とてもおいしくいただけた。市内のイベントでの販売はもちろん、県外でのイベントにも出店し老若男女から人気を博している。最近ではアイスクリームだけでなく、揚げぎんなんなど更なるぎんなんの活用を思案しているとおっしゃられていた。

また、パネルの変更点として、写真の変更やキャッチコピーの追加などが挙げられる。

ぎんなんには脳の老いを防止する成分が含まれているほか、ぎんなん自体も大昔からその姿が変わらずにあることの説明を受けて、この駅のキャッチコピーを、「長生き応援 小国の銀杏」とした。



小国
地域

ぎんなんアイスクリームの駅 【(有)山岸モータース・小国町特産品】

MAP



〒949-5215 長岡市小国町新町15

TEL: 0258-95-3113

FAX: 0258-95-3114

開業時間: 8:30~17:30

お休み: 火曜日

URL: <http://www.ginnan-ice.jp>



**お届けするのは
「おいしさ」と
「健康」です!**

この駅では、自然と季節の香りを大切に、
手作りで安全な無添加・無着色の
お菓子や食品の
製造・販売を行っています♪♪

このアイスの作り手は山形大学で10年のアイスゲームです!



オススメは
ぎんなんアイスクリーム

- ・夢みるバニラ
- ・さわやか抹茶
- ・香ばしいごま
- ・ツブツブぎんなん
- ・クリーミーぎんなん

味は
全5種類
から♪



Q. なぜ、モータースなのにアイスクリームを販売するようになったの?

A. 小国が発展してほしいから!

そこで考えたのが、小国特産品のぎんなんなんです!

でも、ぎんなんはそのまま売ってもあまりメリットがないので、アイスクリームにしたんですよ^^



山岸モータースさんは地域に対する思い入れが強いなあ...

アイスの他には
こんな商品も♪



ここの駅のキャッチコピーは...

「長生き応援小国の銀杏」です!

ヒアリングの際に、銀杏は2億5000万年から生き残り続けているお話を聞きました。またボケ防止の成分も含まれていることから、銀杏を食べて長生きしようと思ったので、このキャッチコピーにしました。

学生の
つぶやき

お話をお聞きした山岸一夫さんは、80歳ということでしたが、これからも仕事のために120歳まで生きたいと仰っておられる程、元気な方でした。また頂いた銀杏揚げは、お酒のお供に合うな~と感じました。

近藤 孝洋

令和元年度編集

<まちの駅 養楽館>

「まちの駅 養楽館」は、トロンという石の成分が含まれた温泉が楽しめる入浴施設である。また、温泉を堪能した後は、地元である小国の食材を使った料理も味わうことができる。

駅長の片桐さんは、明るく可愛らしい方で、レース編みや料理が趣味だそう。養楽館に隣接されている体験館では、様々な体験教室の先生としても務められてる。その他にも養楽館には、紙の美術博物館や森林公園なども隣接されており、一日中居ても飽きない施設となっている。週に2回送迎バスも出ているため、車を持たない方でも利用しやすい。

今回、「まちの駅 養楽館」のパネルを更新した点は大きく2つある。ヒアリング内容をもとに紹介文や写真、学生をつぶやきを変更した点と、駅のアピールポイントやキャッチコピーを追加した点である。

この駅のキャッチコピーは、「心もお腹も満たされるトロン温泉の駅」である。トロン石の成分が含まれた温泉で、日頃の疲れを癒すことができる。さらに、地元小国の食材を使った料理も堪能することができ、心とお腹の両方が満たされることから、このように名付けさせていただきました。



小国
地域

まちの駅 養楽館 【養楽館】

〒949-5333 長岡市小国町小国沢2531

TEL: 0258-95-3161

FAX: 0258-95-3144

開業時間: 10:00～21:00

(12/1～3/31までは20:00まで)

お休み: 水曜日(祝日の場合、翌木曜日)



地元の子供～お年寄りまで
みんなが大好き養楽館！

温泉は、疲労回復・リウマチ神経痛などに効果があります。広い休憩スペースでは、地元ならではの食事が楽しめます！売店には、地元でとれる季節の野菜が安く手に入りますよー

＜入浴料金＞

- ・65才～ ¥200
 - ・一般 ¥400
 - ・中学生 ¥400
 - ・小学生 ¥200
 - ・幼児(小学生以下) 無料
- ※土曜日は半額です。



養楽館駅長: 片桐和美さん

小国をもっと知ってもらいたい！！

〈体験〉

〈アピールポイント〉

やはり入浴施設ということで、ゆったりんびりと、くつろげることが1つです。

次に、週2回の送迎バスがあるので、車の運転が出来ない方にも利用しやすくなっています。

また、近くにキャンプ場があるので、キャンプした後に、温泉に浸かるのもアリです！！そしてお食事は、鳥ぜんまい丼と毎月の限定メニューがおススメです！！

養楽館の隣にある体験館では、様々な体験が出来ます。

〈体験一覧〉

- ・そば打ち
- ・ピザ作り
- ・バームクーヘン作り
- ・木の実を使った工作
- ・和紙を使った工作等

※体験教室は小学生だけでなく、大人も体験出来ちゃいます。

中でも人気なのは、ピザ作りとバームクーヘン作りです！！

〈キャッチコピー〉

「心もお腹も満たされるトロン温泉の駅」です！

トロンという石の成分が含まれた温泉で、日頃の疲れを癒すことが出来ます。さらに地元小国の食材を使ったお料理も堪能出来、心とお腹の両方が満たされることから、このキャッチコピーにしました。

〈学生のつぶやき〉

こちらの駅長さんは、レース編み、料理、読書が趣味の方です。

また、近くに「紙の美術館」があるので、ぜひ立ち寄って見てください。

近藤 孝洋



令和元年度編集

<まちの駅セピア色のまち摂田屋 星野本店>

「まちの駅セピア色のまち摂田屋 星野本店」は、しょうゆ・みそを作る工場と直売所である。江戸時代からのお店なので、昔から続けているという意味で「セピア色」と名付けられたそうである。店内は落ち着いた雰囲気、休憩スペースも用意されている。また、敷地内にある三階蔵は、国の登録有形文化財に指定されている。

更新点は、写真を今年撮影したものに変更した点と、学生をつぶやきを差し替えた点である。また、キャッチコピーの追加も行った。

そして、こちらのまちの駅のキャッチコピーは「まちと人を盛り上げる駅」である。このまちの駅はまちの駅に加入する前からトイレを貸し出したり、摂田屋町内の PR に力を注いでいる点、敷地内の衣装蔵で、落語会や一般の方の個展を展開している点から名付けさせていただきました。



長岡
地域

まちの駅セピア色のまち摂田屋 星野本店 【㈱星野本店】



Googleマップより

〒940-1105 長岡市摂田屋2-10-30

営業時間 8:30~17:00

TEL 0258-33-1530

FAX 0258-35-8226

お休み 土曜、日曜、祝日(不定期)

URL <http://hoshino-honten.jp/>

まちの駅紹介

1846年(弘化3年)創業の摂田屋に蔵を構える味噌・醤油醸造元です。中は落ち着いた雰囲気蔵の梁を再利用したテーブルやイスなど、休憩できる場所があります。

醸造元ならではの逸品を購入できるのでぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

ホームページでは商品の販売やおすすめレシピの紹介をしているので是非ご覧下さい。



店内の様子



お醤油・つゆ

キャッチコピー

「まちと人を盛り上げる駅」

まちの駅になれる前から、摂田屋町内のPR活動に力を入れていたこと、敷地内の衣装蔵で落語会や一般の方の絵や本、手芸などの個展を開催していることから名付けました。



駅長の星野さんとゼミ生



この三階蔵は、国の登録有形文化財指定となりました。

本醸造いくちしょうゆの「蔵元」と本醸造うすくちしょうゆの「白雪」は、品評会で一位をとったこともあるそうです。

学生のつぶやき

醤油の香りがほのかにするこのまちの駅は、昔ながらの建物や蔵をみることができ、とても懐かしい気分になります。私はヒアリングを行っている中で、駅と人の結びつきを感じるエピソードを駅長さんからお聞きして、心がとても温くなりました。皆さんも星野本店さんで、素敵な思い出を作ってみてはいかがでしょうか？

17K055 小山 陸

令和元年度編集:山城 時生

<まちの駅 人生の交差点>

「まちの駅 人生の交差点」は長岡市与板町にある、刃物職人でもある駅長の川野さんが運営している工芸館である。刃物の町である与板にある唯一の刃物の工芸館であり、刃物の柄まで見ることが出来る場所は数少ない。これは与板の素晴らしい技術を発信し、与板の刃物文化を盛り上げたいという駅長の川野さんの熱い思いから続けられ、客層は県内外にとどまらず海外からも訪れる。

また刃物の展示だけでなく、個展として場所の提供を誰にでも行っている。ジャンルは刃物のみにとどまらず、写真展や工芸展など幅広く行っている。刃物工芸館、さらには個展として提供を行うことにより、「まちの駅」の機能である地域の人と来訪者の出会いと交流をサポートする交流機能の面で非常に高い力を持つ駅である。

このパネルの最終更新が平成 25 年と 6 年前であったため、前回作成したパネルに記載した情報から変更、更新があるか確認をとった。そこで営業時間やまちの駅紹介に載せた情報など諸要素を更新することになった。また写真を新たに撮り直し、パネル内で紹介している店内の様子も最新のものに取り換えた。

紹介文の更新に伴い、全体的なフォントの見直しも行った。また、「まちの駅 人生の交差点」の魅力がパネルを見た人により伝わるように、キャッチコピーをパネルに付け加えた。

そんなまちの駅に我々学生が付けたキャッチコピーは、「刃物から始まる与板の文化発信地」だ。与板の刃物文化から全国、そして国を越え様々な人が訪れ、交流することからこのキャッチコピーを付けさせていただいた。普段何気なく使っている刃物。この駅で改めて触れ合うことで、新しい魅力に気づくことが出来るかもしれない。



与板
地域

まちの駅 人生の交差点 【与板刃物工芸館】



〒940-2402 長岡市与板町与板
乙1616-15
■TEL/0258-72-2619
■FAX/0258-72-2711
■開業日/日曜
その他の曜日は電話でお問い合
わせください。
■開業時間/10:00～16:00

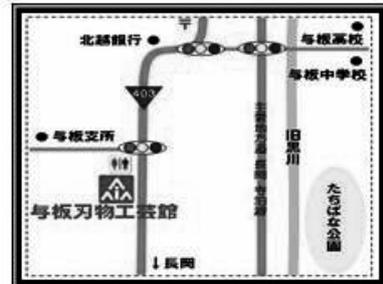
まちの駅紹介



刃物の町、与板。そこで作られた木彫道具(彫刻刀など)の打ち刃物を数多く展示しているまちの駅です。駅長の川野さん自身も職人であり、普段は刃物を作っています。

与板で唯一の工芸館であり、刃物の柄の部分まで見ることが出来る貴重な場所です。

また希望すればどなたにでも場所の提供を行っています。刃物に限らず個展にも利用できます。



キャッチコピー

【刃物から始まる与板の文化発信地】

与板の刃物文化を盛り上げたい！という、駅長である川野さんの熱い思いから、県を越え国を越え多くの人が与板の文化を楽しみに訪れる駅であるため、このキャッチコピーを付けました。



～学生のつぶやき～

館内に入ると、たくさんの刃物や彫刻の作品が展示しており、とても驚きました。駅長の川野さんは明るく元気な方で楽しくヒアリングさせていただきました。 17K026 大竹一輝

令和1年度編集

<あぶらげ巻き寿司の駅>

「あぶらげ巻き寿司の駅」を始めたきっかけは、食堂であることと、まちの駅が長岡で盛んになり商店街の仲間から誘われたことだそうである。

こちらの駅の看板メニューは、まちの駅の名前の由来にもなっているあぶらげ巻き寿司である。昔ながらの食堂でお客様の層は幅広く家族連れからお年寄りまで利用されている。また、まちの駅としての活動では市民協働まつりなどのイベントにも参加している。

パネルの更新点は、写真を今年撮影したものに変更、キャッチコピーを追加、じゃんぼあぶらげ巻き寿司の価格を変更した点である。

そして、こちらの駅のキャッチコピーは、「全国へ栃尾のうまいものを広める駅」である。栃尾のことをもっと多くの人知ってもらうために、全国各地のうまいもの博などのイベントで栃尾のあぶらげを広めていることを参考に名付けさせていただきました。



あぶらげ巻き寿司の駅

【食堂たからや】



〒940-0227 長岡市谷内1-1-5
 ●TEL/0258-52-2476
 FAX/0258-52-9740
 ●開業時間/11:00～20:00
 ●お休み/不定休

駅名のとおり、**あぶらげ巻き寿司**が売りです。あぶらげをモチーフにしたマスコットキャラクター**あぶらげんしん**もいます。

駅を訪れる方々は、家族連れからお年寄りまで幅広く、県外で行われる物産展のリピーターも多いそうです。

たくさんのイベントに参加していますので、是非**じゃんぼあぶらげ巻き寿司**を食べてみてください。



学生のつぶやき

昔懐かしい内装で、名物はじゃんぼあぶらげ巻き寿司です。また、このじゃんぼあぶらげ巻き寿司は全国のイベントなどでも出店されているそうです。訪れた方にはトイレを貸すなど、まちの駅としても積極的に活動されています。栃尾に来た際には、ぜひ訪れてはいかがでしょうか？

16K017 岡部真也



栃尾名物じゃんぼあぶらげ巻き寿司 1本1720円



あぶらげをモチーフにしたキャラクターあぶらげんしん

こちらの駅のキャッチコピーは・・・**全国へ栃尾のうまいものを広める駅です!!**
 全国のイベントなどに出店していて、ヒアリングの際「栃尾を全国に広めたい」とおっしゃっていました。栃尾の油揚げがもっと広がるといいと思い名づけました!!

令和元年度 編集

<まちの駅 菓子処 越後物語>

「まちの駅菓子処越後物語」は饅頭や大福などの和菓子を販売している。寺泊地域にあり、お魚市場があることで有名な地域であるためパワフルなお店を想像していたが、そこらとは一線を引いて落ち着いた和風のモダンな出で立ちである。お店自体は10年目であるが、製造は明治時代から続いており、昔から地元のお客さんに愛されている。最近では他県の観光客も多く訪れているため、寺泊のおすすめのお店を聞かれた際には、とても丁寧に対応されていた。他県から来られるお客さんで、月1回のペースで揚げ饅頭を買って帰られるリピーターがいるくらい揚げ饅頭が大人気である。

トイレを無料で使うことができ、お客さんにいつでもトイレを貸してもいいように綺麗にするよう心がけているそうだ。

更新点は、キャッチコピーの記載と学生コメントが変わった事と揚げ饅頭の原材料がなたね油から北海道の小豆に変更された点である。

こちらの駅のキャッチコピーは「まあるく美味しい和菓子の駅」である。売っている商品が主に和菓子だということとお饅頭のフォルムが丸いため、こう名づけさせていただいた。



寺泊
地域

まちの駅 菓子処 越後物語 【(株)西山製菓】



〒940-2502

長岡市寺泊磯町9764-31

TEL: 0258-75-4735

FAX: 0258-75-3786

営業時間 9:00~17:30

お休み: 年中無休

URL: <http://www.nishiyamaseika.jp/>

年中無休で営業しているお店です。お饅頭を商品として販売しており、添加物を一切使わず、手作りで作っています。

人気商品の揚げ饅頭はお店の売り上げランキングで1位です。他にも味噌饅頭、チーズ饅頭など多くの商品を自社で製造、販売をしています。また、新商品開発にも取り組んでいるそうです。



1番人気!
揚げ饅頭
北海道の
小豆を使用
しています。



その他にも、あんぱんまんじゅうなどがあります。こちらは蒸すのではなく焼いて作るので、10日から2週間は持ちます。

お饅頭だけでなく、クッキーやラスクなどお饅頭以外の商品も多く扱っています。カウンターで試食もできます。道を探ねてくるお客さんにはなるべく丁寧に説明するように心がけています。

キャッチコピー

「まあるく美味しい和菓子の駅」

おまんじゅうのフォルムが丸いこととお店の揚げ饅頭が美味しかったためそう名付けました。



チーズ饅頭

味噌饅頭の生地の中にクリームチーズが入っています。甘いのが苦手な人でも食べられるようになっています。

学生をつぶやき

魚天国というイメージが強い寺泊だったのですが、和風のモダンな雰囲気のおかげで、旅行中の一服に最適な場所だと感じました。そして、休憩機能であるトイレが丁寧に清掃されており自分の心も綺麗になった気がします。 小林萌香

令和元年度編集

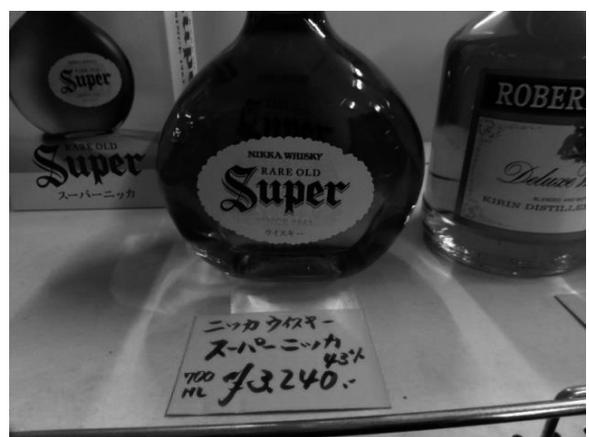
〈まちの駅 よってげさ おぐま酒家〉

各種様々なお酒を取り扱っている酒屋さんである。主に、日本酒の販売が主体で日本酒だけでも100種類ある。他にも、お酒にあうおつまみや、パン等が販売されている。おすすめは日本酒で、その中でも想天坊、大吟醸謙信、越乃寒梅がおすすめである。そして店内には、テーブルとイスが設置されており、そこで飲み会も出来るという魅力的な場所だと感じた。定期的に交流イベントも開催されており、自然と人が集まる駅である。

かつては、手作りお弁当屋さんだったらしく、その名残もあり駅長さんの趣味は料理である。また、「NPO法人 伝統食健康法 長岡支部」に駅長さん自身が所属されているので、伝統食健康法のレクチャーも受けられる。

パネルの更新点は、学生と写っている写真とキャッチコピーの追加、背景デザインである。また、酒屋ということで、和風のデザイン、フォントに変更した。

この駅のキャッチコピーは、「健康×お酒の駅」である。駅長さんである、小熊さんが健康志向であり、特に食にもこだわっていたことが印象的だったため、このようにキャッチコピーを付けさせていただいた。



長岡
地域

まちの駅 よってげき

【おぐま酒家・NPO法人伝統食研究会長岡支部】



〒940-0068
長岡市柏町2-1-8
■TEL/0258-32-0381
■FAX/0258-34-0017
■営業時間/10:00~18:30
■休み/日祝、年末年始

日本酒の販売が主体で、食料品とパン等を販売しているまちの駅です。
日本酒だけでも80種類ありますが、その中でもおすすめ商品は香露、越乃寒梅、雪中・美守（ひだもり）、想天坊などです。
店内にはテーブルとイスがあるので、店内で買ったお酒を飲むこともできます。また、定期的に地域の人を交えての交流イベントなども開催しています。



キャッチコピー



健康×お酒の駅

駅長さんである小熊さんは、お酒だけではなく食に対するこだわりがあります。健康を支えるのは、他ならない食だと熱弁している姿が印象的でした。
また、伝統食健康法のレクチャーも受けることができるということで、このキャッチコピーにしました。



パンやお茶などの食品も各種取り揃えています。

店内で飲み会をするのも可能！



さまざまな銘酒が揃っています。

学生のつぶやき

駅長さんの、「食」に対するこだわりが強かったのが印象的でした。伝統食健康法も教えていただけるとのことで、ぜひ一度お話を詳しく聞いてみたいと思いました。

沼沢純子



令和元年度編集：沼沢純子

<まちの駅 松田ペット>

「まちの駅 松田ペット」は、犬・猫の販売やトリミングを行っているペットショップである。この他にも、ペット用品の販売やペットホテルなど、ペットに関する様々なサービスを受けることができる。また、犬の芸が楽しめる劇場の運営も行っている。

店内には、休憩スペースがあり無料でお茶やコーヒーも飲めるので、立ち寄りやすい雰囲気となっている。看板犬のちまきちゃん（トイ・プードル）やたくさんの犬猫たちが訪れる人々に癒しを与えてくれる駅である。

駅長の松田さんはパワフルで若々しく、トリミングやホテルを利用する犬・猫の送迎を自らが行っている。ヒアリングに伺った際には、特技である手品を見せていただいた。

今回、「まちの駅 松田ペット」のパネルを更新した点は大きく2つある。ヒアリング内容をもとに紹介文や写真、学生をつぶやきを変更した点と、駅のアピールポイントやキャッチコピーを追加した点である。

この駅のキャッチコピーは、「キュートなペットがあなたと地域を結ぶ駅」である。地域の方々やスタッフのみなさんとの出会いをペットたちがサポートしてくれる、人と動物が繋がった素敵な駅だった。ペットショップとしても、まちの駅としても愛される地域に根差した憩いの場だと感じたため、このように名付けさせていただいた。





まちの駅 松田ペット 【(株)松田ペット】



松田ペットは犬・猫の販売、トリミングを行っています。子犬や子猫は見るだけで癒されてとっても可愛いですよ！ペット用品もカラフルで可愛い物が沢山ありました。ペット向けの泥パックもやっているそうです。

セルフサービスのコーヒー、お茶等の他に、なんと無料の公衆電話もあります！椅子とテーブルもあるので、ちょっと一休みできます♪

駅長の松田 保夫さんは社会貢献の意味も込めて、まちの駅をやっていて、「儲けるだけでなく、世の中に貢献することで、人間的にも企業としてもレベルアップすると思う。」とおっしゃっていました。



遊びに来てね

学生のつふやき

看板犬のちまきちゃん(トイプードル)や、たくさんの可愛いわんちゃん猫ちゃんが迎えてくれます♪思わず立ち寄りたくなるような駅です！



キャッチコピー

「キュートなペットがあなたと地域を結ぶ駅」

地域の方々やスタッフのみなさんとの出会いをペットたちがサポートしてくれる、人と動物が繋がり合った素敵な駅だと感じました。ペットショップとしても、まちの駅としても愛される地域に根差した憩いの場です。



まちの駅の看板が目印



〒940-2104
長岡市大島新町1-1-15
TEL:0258-27-4811(代)
FAX:0258-28-3377
開業時間/9:00~19:30
休み:なし

令和元年度編集 小出優花

<まちの駅 越後川口やな場>

明治のはじめからあった「やな」という仕組みを利用して鮎などの魚を捕っているまちの駅である。そこでとった鮎は近くにある別館でいただくことができる。駅長さんのイチオシは炭火で焼いた鮎や鮎飯だそうだ。度重なる豪雨などの災害を乗り越え、営業を続けられている。

県外からのお客さんも多くいらして、夏には鮎のつかみ取り体験も行われ、ファミリー層にも人気がある。末永くお客さんに来ていただいて、鮎の本当のおいしさを感じていただくのが駅長さんたちの願いである。

パネルの変更点としては、営業時間の変更、キャッチコピーの追加、写真の変更などがあげられる。

この駅のキャッチコピーは、「大自然に囲まれた、川の幸を楽しめる駅」に決まった。取材に行った当時は、やな場が設置されている魚野川が青々とした山に囲まれ、とてもリフレッシュできた。また、そのやなで捕れた鮎の塩焼きを楽しむこともでき、とても充実したことから名付けさせていただいた。



川口
地域

まちの駅 越後川口やな場 【越後川口やな場】



- 〒949-7513 長岡市西川口1029
- TEL: 0258-89-3104
- 営業時間: 別館 10:00~17:00
やな場 10:00~16:00
- 休み: 無休(12月~3月、15:30以降の
来店は要予約)

まちの駅紹介

ここは、日本で有数の歴史と占有面積を誇るやな場です。川口の魚野川に置かれたやなで捕れる天然の鮎は絶品！街並みから離れた場所で、ゆったりと過ごす時間は“越後川口やな場”ならではの魅力です。美味しい食事はやな場のすぐ近くにある別館(右の写真)で楽しむことができます。



人気メニュー
鮎の塩焼きとあゆめし



キャッチコピー

【大自然に囲まれた、川の幸を楽しめる駅】

川口の豊かな自然に囲まれた中で、鮎を楽しみながらゆったりとした時間を過ごすことからこのキャッチコピーにしました。

川口
の
風
景



学生のつぶやき

川口の自然に囲まれた中で食べる、炭火で焼き上げた鮎は頭から尾まで丸ごと食べられる格別のおいしさ！
あなたも、越後川口やな場で特別な時間を過ごしませんか？

智野虎太郎

令和1年度編集

7. 越路マップの改訂

7.1 越路マップの改訂の経緯

越路地域の駅長である平田さん（まちの駅 酒蔵のある里）や内藤さん（手作り漬物の駅）から、2年前と状況が変わった道路網や観光情報の追加、退会されたまちの駅と閉店されたお店の削除をしてほしいという依頼を受けたため、改訂作業を行うことにした。

7.2 活動スケジュール

ここでは越路マップの改訂をするうえでの、スケジュールについて説明する。

ゼミ生とながおか市民協働センターの事務局、越路地域の駅長さんと話し合ったスケジュールは、以下の通りであった。

- <4月> 平田さん、内藤さんから依頼を受ける
- <5月> 江口さん（平成29年度鯉江ゼミナール卒業生）に連絡を取る
- <6月> 江口さんからイラストのデータをもらう 越路地域の探索
- <7月> 道路の下書き
- <8月> 再度、越路地域の探索 イラストとコメントを置いていく
- <9月> 文章の打ち込み
- <10月> 完成 印刷
- <11月> もみじ園で配布

しかしながら、実際は以下のような進捗となった。前半はマップ作成に取り掛かる時期が遅かったため予定通りに進まなかった。しかし夏休みに入って、担当者と何度も連絡を取り合って作業を進めたところ、前半の遅れを取り戻した。そしてもう一度越路地域を探索したことで変更すべき点や掲載しなければいけない点を明確にできたことにより、後半は順調に進むことが出来た。そして予定通り10月に完成し、11月にもみじ園で配ることが出来た。

- <4月>平田さん、内藤さんから依頼を受ける
- <5月>江口さんから連絡をとる
- <6月>江口さんからイラストのデータをもらう 越路地域の探索
- <7月>道路の下書き 表面の打ち込み完成
- <9月>再度、越路地域の探索、イラストとコメントを置いていく
- <10月>完成 印刷
- <11月>もみじ園で配布

7.3 改訂作業の工程

この節では、改訂作業の工程について説明していく。

<改訂にあたっての基本的考え方>

越路地域の方たちに、学生にやってほしい事と課題について挙げてもらった。そこでは「2年前に作成してもらったマップを配る活動を継続的に行ってほしい」という依頼を受けた。そのためには、継続的な改訂が必要になることを確認した。

その後学生で話し合いを行い、継続的な更新・改訂のためには高価な専用のソフトウェアを使用していくのではなく、誰でも簡単に作成できる方法を考えなければいけないという意見が出た。

<改訂のための作業工程>

そこで、次のような工程で作業をすることにした。

ステップ1：パラフィン紙の下に旧越路マップを敷き、鉛筆で道路をトレースする。

ステップ2：完成した道路網をスキャンしデータ化する。

ステップ3：イラストやコメントを個々に作成する（改訂前のイラストやコメントについては使えるものは有効活用する）

ステップ4：データ化した道路網の上にイラストやコメントを追加していく。

ステップ5：PDF化して完成。印刷。

2回目の話し合いの際に上記の方法を提案したところ、依頼者とながおか市民協働センターの方から「そういう作り方があるのか」と驚かれた。



(図7-1)話し合いの様子

7.4 変更点

この節では、マップの変更点について述べていく。新しく追加したイラスト等はないが、道路や文字を有料ソフトではなく手書きと無料ソフトで作成したため全体的な印象は変わった。なお、越路マップについては、「10. ウェブページの更新」を参考に、本学HPから閲覧していただければ幸いである。

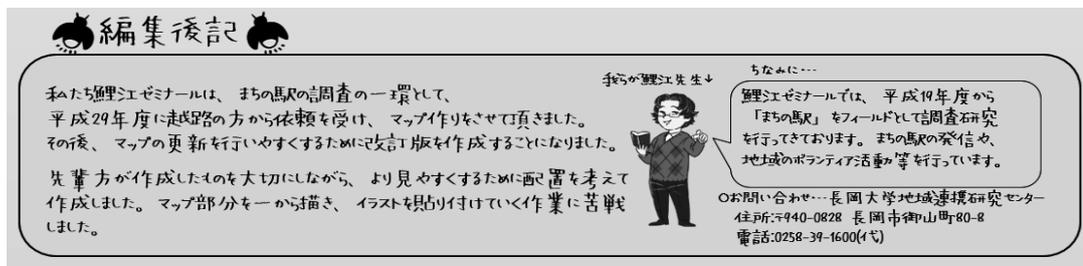
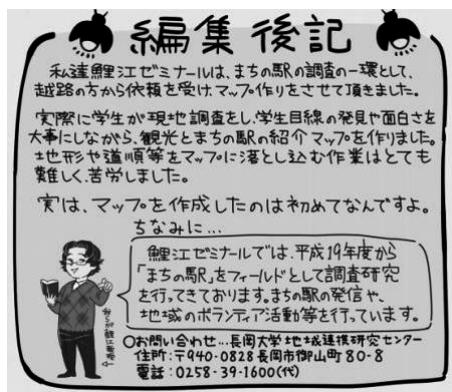
以下が改訂した越路マップである。(図7-2) (図7-3)

(図7-2)越路マップの表面

(図7-3)越路マップ裏面

< 編集後記 >

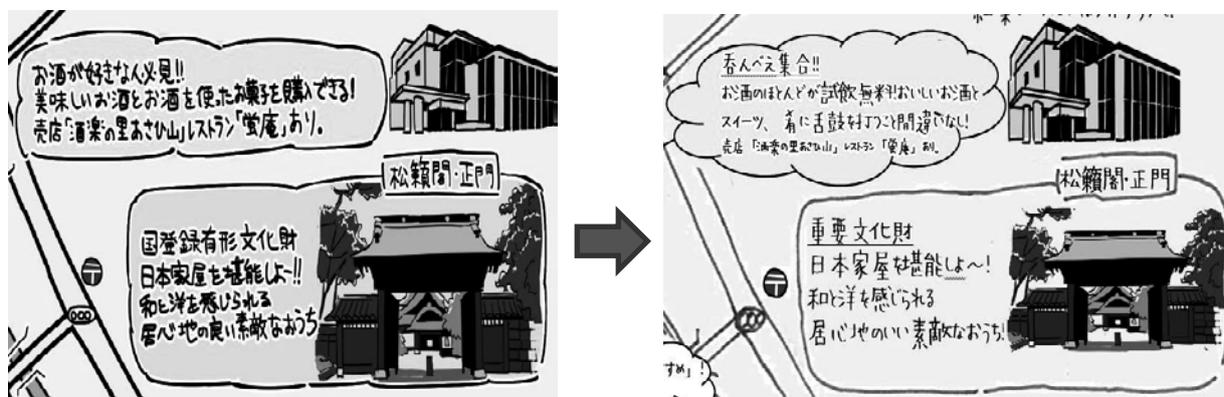
文章自体はそれほど変わったところはないが、見やすいように横長なスタイルに変更した。鯉江康正教授の似顔絵イラストはゼミ生に好評であったため、掲載させて頂いた。



(図7-4) 編集後記

< 朝日酒造と松籟閣 >

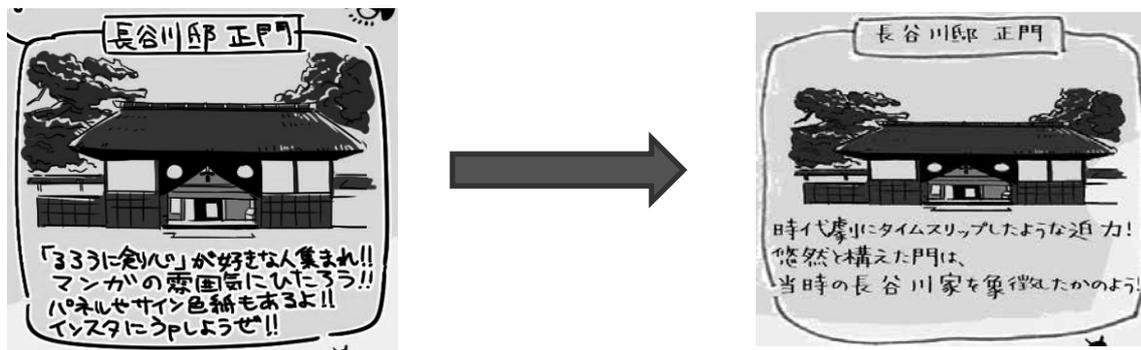
朝日酒造のコメントは、前はシンプルなお店の紹介コメントだったが、今回はお店の紹介をしつつ呑んべえさんを刺激するような紹介文にした。また、松籟閣は、国登録有形文化財（平成15年に指定）であったが、平成30年に国重要文化財に指定された。



(図7-5) 上：朝日酒造 下：松籟閣

<長谷川邸>

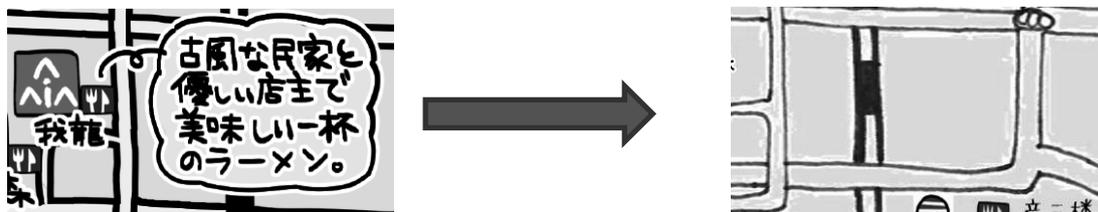
るろうに剣心のパネルやサイン色紙を展示しなくなったため変更した。(図7-6)



(図7-6)長谷川邸

<まちの駅とお店>

我龍がまちの駅から退会した。(図7-7)



(図7-7)まちの駅我龍

7.5 もみじ園での配布

7.5.1 概要

(1) 日時

令和元年11月9日(土)、10日(日)

(2) 場所

もみじ園

(3) 参加学生

11月9日(土)

学年	氏名
4年生	小出優花、近藤孝洋
3年生	智野虎太郎

11月10日(日)

学年	氏名
4年生	岡部真也、山城時生
3年生	小林萌香、小山陸



7.5.2 内容

この両日は紅葉がピークであったため、多くの方がもみじ園に来場されていた。そのこともあり、2日間で印刷した1000部全てを配りきることができた。

7.6 越路マップの改訂を終えて

7.6.1 反省点・改善点

- ・絵を描ける人が少なく、1人の負担が大きかった。
→絵が描けない人でもイラストを置く等の描かなくてもよい作業はあったため、分担する。
- ・前回の制作者のようなクオリティー差があったことと絵のタッチが違うため新しくイラストを追加することができなかった。
→クオリティーが劣っていても時間をかければ絵のタッチは似せられる。
- ・文字が見づらい、小さい。
→見やすい手書きフォントにする。

7.6.2 良かった点

- ・イラスト、コメント、道路マップ、越路背景図のデータを部品化したため、次の改訂がしやすくなった。
- ・全体の道路マップができているため、改訂作業の負担が減る。
- ・知らない地域に赴いて、新しい発見を見つけた時のワクワク感を感じる事ができ、学生の探求心が高まった。

7.7 まとめ

この章では改訂した越路マップの掲載と作業工程について述べてきた。

越路マップの依頼を受けて最初に感じたことは、旧マップのクオリティーを下げちゃうのではないかというプレッシャーである。前回の制作者が使用していた有料ソフトではなく、鉛筆やペンを使っただけの作業であったため限られた画材を活用して道路を正確にトレースしていくのに苦労した。一度描き間違えてしまうと最初からやり直さなければならなくなり、気が遠くなるような作業だった。

道路のトレースが完成した後のイラストを置いていく作業では、背景である越路地域とイラストがずれないようにすることが作業工程の中で一番時間がかかった。少しでもずれてしまうと、マップとして機能しなくなるため、この作業は慎重に時間をかけた。

完成したマップをもみじ園で配布した際、越路地域の方から「また違った越路マップになったね」や「良くなったね」という言葉をいただいて、ずっと感じていたプレッシャーから達成感に変わった。

この活動を行ったことによって知らない土地に足を運び、新しい発見をした時の高揚感を味わうことができた。普段関わる事のない地域の方々と関わる事が出来て良い経験になり、何よりも鯉江ゼミ全体の絆を深めることができたためこの活動をやって良かったと感じた。

8. 新潟県内まちの駅交流会

8.1 概要

8.1.1 目的

県内のまちの駅、行政関係者、鯉江ゼミナールが一堂に会し情報を共有し、交流を深めることである。

8.1.2 日時

11月14日(木) 18:00～20:30

8.1.3 場所

アオーレ長岡 市民協働ホールC

8.1.4 参加学生

学年	氏名
4年生	岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生
3年生	エンヘバト・ソロンゴ、大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子 陽凱楓、バヤルフ・ツウゴスボルド、アルタンチメグ・デルゲルマー

8.1.5 プログラム

17:30 受付開始

18:00 原田さん挨拶（越後長岡まちの駅ネットワーク代表） 鯉江挨拶（本学教授）

18:15 鯉江ゼミナール 中間発表会

18:30 学生企画『学生によるまちの駅インタビュー』

18:45 学生企画『19:30までまちの駅 討論会』

19:30 交流会 軽食会

20:20 記念撮影

20:30 終了



8.2 中間発表会

8.2.1 内容

(1) 発表

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい

(2) ご意見 ご感想

<アドバイザー>

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事

中川一男 氏

NPO 法人 市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏



(3) 発表学生

学年	氏 名
4 年生	岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生
3 年生	大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子 アルタンチメグ・デルゲルマー

8.2.2 開催目的

成果発表会に向けての発表練習とブラッシュアップを図るためにアドバイザーの方々に意見を聞く。

8.2.3 感想

中間発表は本来、時間制限はないがプログラムの関係で本番と同様 13 分で行うことになった。当初、留学生は発表メンバーには含まれてはいなかったが、学園祭の模擬店で販売した「ツイワン」はモンゴル料理であり、留学生の貢献度の高さから、先生の指摘を受けて発表メンバーに加わってもらった。発表を終えた後、感想をいただいたがとても好評だったので成果発表会に向けてやや自信がついた。

しかし一方で、学生の意見や本音あまりないのではないかという意見をいただいた。それを活かし成果発表の原稿やスライドには、なるべく学生の意見を盛り込むことを意識して作成した。また、最後の交流会でも様々な意見や感想を聞くことができ、成果発表に対する意識の向上も図ることができた。

8.3 学生によるまちの駅インタビュー

8.3.1 内容

長岡大生4人で進行していき、くじ引きでまちの駅を選び、学生が「まちの駅になったきっかけ」や「現在の活動・駅のPR」「今後していきたいこと」などの質問をするコーナーである。なごやかな雰囲気で行い、まちの駅の駅長が他のまちの駅を知り、交流するきっかけを作る。



8.3.2 インタビュアー

学年	氏名
4年生	近藤孝洋
3年生	小林萌香、智野虎太郎、沼沢純子

8.4 19:30 までまちの駅討論会

8.4.1 内容

「駅への入りづらさ」「駅同士で連携があまりとれていない」という課題について話し合う。各まちの駅、市民協働センター、鯉江ゼミナールとまちの駅についての課題・解決策を話し合い共有する。

8.4.2 ディスカッションに参加した学生

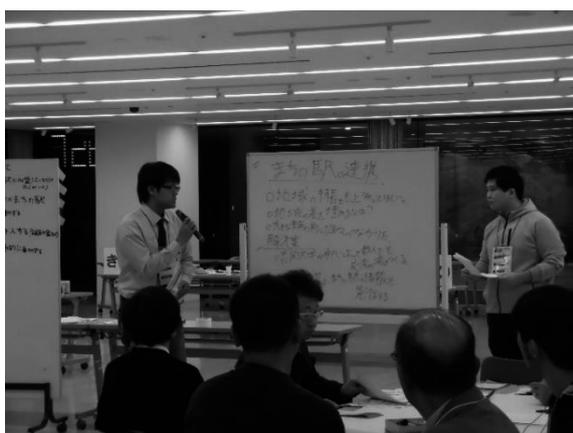
学年	氏名
4年生	岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生
3年生	エンヘバト・ソロンゴ、大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子、陽凱楓、バヤルフ・ツウゴスボルド、アルタンチメグ・デルゲルマー

8.5 まとめ

当初は会場も決まっていた、鯉江ゼミナールでいくつか企画を考えてほしいというものだった。しかし、ながおか市民協働センターの方々と話し合いを行うなかで学生が企画、運営を行うこととなった。中間報告会、インタビュー、討論会は学生が、交流会はながおか市民協働センターの運営のもと行う形となった。8月から具体的な話し合いを進め、当初話し合った企画と実際の企画はまったく異なるものとなった。自分たちがまちの駅に伝えたいことと言うものがあまりないとの指摘を頂いたので、まちの駅をより良くするためにどんな企画をしたら良いか真剣に考えるよい機会となったことや、自身の考えをしっかりと伝える大切さを学ぶことができた。

当日は多少、時間のズレはあったものの予定通りプログラムを進行することができた。司会がスムーズに行えて、参加していただいた方からもお褒めの言葉をいただいた。事前にアンケートを作成し、学生以外の参加者全員に書いてもらった。そこには学生の本音や意見を盛り込んで欲しいという意見をいただいたので、次回このような機会がある時にはもっと自分達の意見を主張しようと感じた。また企画がとても好評だったが、もっと時間

を設けてじっくり話し合いたいという意見もあったので課題についての話し合いをメインにしてもいいと思った。このようなイベントに積極的ではないまちの駅をどのように呼び込むか、早い段階でフライヤーを作成し広報活動を行うなどしていきたい。討論会での議題のまちの駅が抱えている課題を解決するには、まず「まちの駅どうしの連携不足」を解消することだと参加者が共通して認識することができた。この課題は数回のイベントや行事で解決できるものではない。鯉江ゼミナールやながおか市民協働センターなど大きな組織などが、このようなイベントを継続して行うことで少しずつ関係を強化していくことが大切だと学生自身も認識できた。様々な駅の現状を聞くことができ、来年度の活動のモチベーションアップにも繋がる良い機会であった。



新潟県内まちの駅交流会の様子（左：討論会の班別発表、右：交流会）

9. 成果発表会

9.1 概要

9.1.1 日時

令和元年 12 月 7 日（土）13：00～16：30

9.1.2 場所

ホテルニューオータニ長岡 NC ホール

9.1.3 発表学生

学年	氏 名
4 年生	岡部真也、小出優花、近藤孝洋、山城時生
3 年生	大竹一輝、小林萌香、小山陸、智野虎太郎、沼沢純子、陽凱楓 アルタンチメグ・デルゲルマー

9.1.4 発表内容

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい！

9.1.5 ご意見 感想

＜アドバイザー＞

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事 中川一男 氏

NPO 法人 市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター 太田道子 氏

9.2 開催目的

地域活性化に参加するゼミナールが1年間行ってきた活動の成果を13分で発表する。

9.3 留学生からの感想

今年1年のゼミナールの活動とまちの駅の一部のイベントに参加して、充実した時間を過ごすことができた。また、留学生を代表して発表をする機会を得られたことに感謝の気持ちでいっぱいであり、今回の私たちの発表は学生による地域活性化の代表的な良い発表になることができたのではないかと感じている。

地域活性化プログラムの重要な目標は、学生が地域の課題を対象に調査研究を行うことである。私たちのゼミナールは、その目標に向かって他のゼミナール以上に活動してきたと感じている。来年の発表への改善点として、活動を通してどのような成果があったのかを数値化して明確に発表に取り入れるべきなのではないかと考えた。そうすることでより良い発表内容になると思う。

9.4 まとめ

この章では成果発表会について述べてきた。発表する学生で分担を決め、各自で原稿とパワーポイントの資料を作成し削除・追加する箇所を確認していった。発表を13分以内に収めるために、ゼミの時間や空いている時間を見つけて学生同士で集まり、練習を何度も行い当日までに目標の13分以内に収めることができた。

発表会当日は2番目の発表で緊張もあったが、今までたくさんの練習を積み重ねていったことによって時間内に発表を終えることができた。今回の活動を通して、私たちも1年間の振り返りができたとともに、聞いてくださった方々に「まちの駅」のこと、この1年でどんな活動をしてきたのかを知っていただくことができたと感じる。この経験をもとに来年の成果発表をより良いものにしていきたいと思う。



10. ウェブページの更新

今年度も県内に新しく設置されたまちの駅の紹介パネルおよび更新したパネルの掲載を行った。このページは、長岡大学のホームページにリンクが貼られており、「まちの駅 長岡大」内の「新潟まちの駅紹介」からアクセスすることができる。

そこでは、鯉江ゼミナール生が平成 19 年度から作成している活動報告書および県内に約 130 駅あるまちの駅の紹介パネルを閲覧できる。

長岡大学 (HP) https://www.nagaokauniv.ac.jp/gp_c/zemi25-01/index.html

掲載してある項目の概要は、以下とおりである。

<まちの駅とは>

まちの駅の概要を紹介すると共に、より詳しいまちの駅の情報が見られる「全国まちの駅連絡協議会」の公式サイト「まちの駅」へのリンク機能が付いている。

<県内のまちの駅リンク>

新潟県内でまちの駅ネットワークを形成している「越後長岡まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワークみつけ」へのリンク機能が付いている。

<これまでの活動概要>

各年度活動報告書に、新たに昨年度の鯉江ゼミナールの長岡大学地域活性化プログラム報告書を追加した。

<今年度の活動一覧>

今年度の活動を一覧で紹介している。今年度改訂した「越路・まちの駅いこ～てえ～マップ」も、こちらで閲覧することができる。

<FM ながおか「まちの駅 1 分間 CM 企画」>

こちらでは、今年度 FM ながおかで放送した「まちの駅 1 分間 CM 企画」を聞くことができる。

<まちの駅一覧>

今までに作成したパネルに加え、今年度作成したまちの駅のパネルの追加と更新を行った。ここでは、約 130 駅の新潟県内のまちの駅のパネルを紹介している。地域ごとの検索ボタンから下にあるまちの駅のリストにアクセスできるようになっている。

今年度新たに追加・更新したまちの駅が一目でわかるように、それらには「NEW」「更新」と目印を付けている。

11. とりまとめ

以下、今年度の活動・研究の結果明らかになった点をまとめ、今後の課題を整理する。今年度の活動・研究のテーマは『「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい!』である。

今年度の「まちの駅」のヒアリング調査・パネル作成は、新規作成したパネルが4駅・更新したパネルが11駅(1分間ラジオCMでヒアリング調査を行った10駅を含む)である。ヒアリング調査は、全国まちの駅連絡協議会や越後長岡まちの駅ネットワーク事務局の方からの情報提供から始まった。その後、アポイントメントを取り、ヒアリングを実施した。パネル作成では、ヒアリングで得た情報をメンバー間で整理し、皆のアイデアを活かしながら行った。そして、完成したパネルをメールやFaxでお送りし、確認していただいた。その後、修正点があれば修正し、再度メール等でお送りし、了解を得たら完成となった。多くの駅にヒアリングに伺いパネルを作成したことで、新潟県内のまちの駅に関する知識が深まったと感じる。来年度に伺う予定の新駅の情報も既に頂いているので、今後もヒアリング調査に力を入れて活動していきたい。

今年の悠久祭は、まちの駅パネル展に加え模擬店も企画した。パネル展は毎年行っているため、準備などは円滑に進んだが、模擬店の運営は悪戦苦闘の連続だった。当日もいくつかのトラブルなどに見舞われたが、その都度冷静に対応することができたと思う。20店舗もある模擬店の中でも、お客さんには非常に人気だった。ただ、材料費が掛かってしまったり、麺を手作りしたりという手間などがあったため、作る数に限りがあった。模擬店を企画するのならば、もっと手間を少なくする方法を考える必要がある。

ボランティア活動は、まちの駅を通じて「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」「花はすの水やり」「とうきび観音まつり」「ながおか市民活動フェスタ」「今町まちなかマルシェ2019」に参加した。ボランティア活動を行ったことで、地域の方々と交流ができ楽しみながら活動出来た。継続して活動することで、地域の方からも喜んでいただき、主催されている方からは「毎年助かっている」「また来てほしい」という声をいただくことが出来た。次年度もこのような声をいただけるよう今年度の活動を振り返り、地域活性化に繋げていきたい。

1分間CM企画では、昨年度行った5分間ラジオ番組のステップアップ企画ということで難しい活動であったがやりがいを持って取り組むことができた。重視した点として、収録のためのヒアリングを通じて学生が感じたその「まちの駅」の魅力をどうラジオに盛り込むかという点である。まちの駅を身近にそして魅力的に思ってもらうためには、まず伝える側がその強みを理解しなければならない。今回のこの取り組みは、まちの駅から地域活性化につなげたいという鯉江ゼミナールの活動目標達成のために欠かせない活動であったと感じる。

越路マップ改訂のプロセスとして、初めに越路地域の方からマップの改訂をしてほしいという依頼を受けた。越路地域の探索を行い削除する情報と新しく記載する情報を精査し、ゼミのメンバーと話し合いを行った。情報をまとめ終わった後は道路を描いていき、越路地域の方と市民協働センターの方に確認してもらいマップを完成することができた。

新潟県内まちの駅交流会は、昨年のオール新潟をもとにして学生が主体で行うというゼミナールとしてはじめての試みだった。話し合いを8月下旬ごろから進めており、企画も

当初のものとは大きく変更することとなった。そのため学生間で情報をうまく共有できず、意見が食い違うことが多々あり、書類を作成したりすることによる情報共有、管理の大切さを身に染みて感じた。また郵送や電話などでの広報活動により、予想よりも多い60名の方に参加していただけた。当日は学生企画で90分の時間を設けてもらい、中間報告とインタビュー、討論会を行った。まず、中間報告会だがこの交流会で行うことで例年とは異なりアドバイザー以外の多くの方に発表を聞いてもらえた。いままでヒアリングなどで鯉江ゼミのことは知っているが、活動内容を知らない方が多かったので「いろいろな活動を頑張っている」とたくさんの方からお褒め言葉をいただき嬉しかった。二つ目のインタビューの目的は、「まちの駅が他のまちの駅を知る」というのが目的だった。当日は時間の都合上、5駅ほどしか紹介はできなかったもののイベント後のアンケートでは「他のまちの駅を知れてよかった」、「話しかけるきっかけづくりになった」という意見をいただき本来の目的以上の成果を上げることができた。最後の討論会では、時間が短いという指摘が多く改善の余地があると感じた。しかし、まちの駅が抱えている根本的な問題は情報共有の不足に集約されるという結論を導き出すことができ、その場でそのことを共有することができた。今後も、交流会やイベントを開催してほしいという意見を多数いただいた。なお学生は、今回の交流会で出た「情報共有の不足の解消」にはイベントの回数を重ね、顔を合わせていくことが大切だと身をもって感じた。また学生主体でイベントを行うには、事前準備、情報共有、広報活動が大切だがそれを実感できる良い機会となった。来年度以降も続けていき、地域の活性化につなげていきたい。

ウェブページの更新では、新駅の紹介パネルおよび更新したパネル、まちの駅1分間CMなどの今年度の活動を追加した。

今年度は全体的に、スムーズにゼミ活動を行うことができなかつたと感じている。要因としては、サポート体制の確立や情報の整理が出来ていなかったことが挙げられる。これまでの活動の中で1人に依存してしまうケースが多々あり、負担を掛けてしまった。そして情報の整理が上手く出来ていなかったために、メンバーが個々に考えていることが異なる状況が起きてしまった。

来年度は、ゼミ生各々が積極的かつ責任感を持って活動していくことが必要であると感じている。年々、活動内容が濃くなってきたことで多くの情報が頭の中を飛び交うようになった。そのため、「報告・連絡・相談」をしっかりと行い、ゼミ内で共有をし、1つの事象ごとに「まとめ」をしなければならない。そうすることで、更に有意義な活動ができるのではないかと思う。

鯉江ゼミナールが、まちの駅に与えている影響は大きいと感じている。そのため学生の意見は重要な位置づけにある。学生の本音をもっと発信していくことで、まちの駅を取り巻く環境に変革を起こすことが出来る。そして、学生・駅・市の三者が“ONE TEAM”となることで「地域活性化」が活発に進むのである。

< 謝 辞 >

最後に、お忙しい中、私たちの活動にご協力して下さった「全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営幹事」の中川一男様、「NPO 法人 市民協働ネットワーク長岡 コーディネーター」の太田道子様を始め、ヒアリング・パネル作成にご協力いただきました、まちの駅関係者の皆様、まちの駅 1 分 CM の制作にご協力いただきました「FM ながおか 製作部」の山田光枝様、越路マップ更新にご協力いただきました「手作り漬物の駅 駅長」内藤淳様、「まちの駅 酒蔵のある里 駅長」の平田誠様、新潟県内まちの駅交流会の準備・運営にご協力いただきました、ながおか市民協働センターの皆様、誠にありがとうございました。

また、日頃の活動のサポートをして下さった「地域連携研究センター」の職員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

(以上)

< 参考文献 >

- 文献 1：長岡大学『平成 30 年度 学生による地域活性化プログラム活動報告書 「まちの駅」から地域の魅力を発信し交流人口の増加に寄与したい！』平成 31 年 3 月
- 文献 2：全国まちの駅評議会 まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>) 令和元年 12 月閲覧
- 文献 3：国土交通省 「道路：道の駅案内－国土交通省」国土交通省 (<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/>) 令和 12 月閲覧
- 文献 4：新潟県長岡市栃尾地域・栃尾観光協会公式 Web サイト栃尾観光協会 (<http://tochiokankou.jp/>) 令和元年 12 月閲覧
- 文献 5：道の駅公式ホームページ全国「道の駅」連絡会 (<https://www.michi-no-eki.jp/>) 令和元年 12 月閲覧
- 文献 6：長岡大学『平成 29 年度 学生による地域活性化プログラム活動報告書 「まちの駅」をフィールドとした活動による地域活性化への貢献』平成 30 年 3 月
- 文献 7：長岡大学『平成 29 年度 学生による地域活性化プログラム活動報告書 「まちの駅」から越路地域の魅力を発信』

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 栃尾地域のPRによる活性化
～栃尾高校との協働による商品開発・販売と観光開発～
石川英樹ゼミナール
2. 「まちの駅」から地域の魅力を発信し、地域を盛り上げたい！
鯉江康正ゼミナール
3. 十分杯で長岡を盛り上げよう！
－現在に続く世界と長岡の関係－
権 五景（樂九）ゼミナール（1）
4. 商いを通じて学ぶ会計と経営戦略
～地域に貢献する商品開発を通じて～
平田沙織ゼミナール（1）
5. 長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！
～長岡版「オープンファクトリー」の開催を～
栗井英大ゼミナール
6. グラスルーツグローバル化
－草の根・地域からの人類一体化の推進－
広田秀樹ゼミナール
7. 商いを通じて学ぶ会計と経営戦略
～繁盛する模擬店を目指して～
平田沙織ゼミナール（2）
8. 酒粕で長岡を盛り上げよう！
－さらなる活用への道のりと課題－
権 五景（樂九）ゼミナール（2）

令和元年度 学生による地域活性化プログラム 鯉江康正ゼミナール活動報告書

【発行日】 令和2年2月26日
【発行人】 村山 光博
【発行】 長岡大学
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
TEL 0258-39-1600（代）
FAX 0258-39-9566
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>